

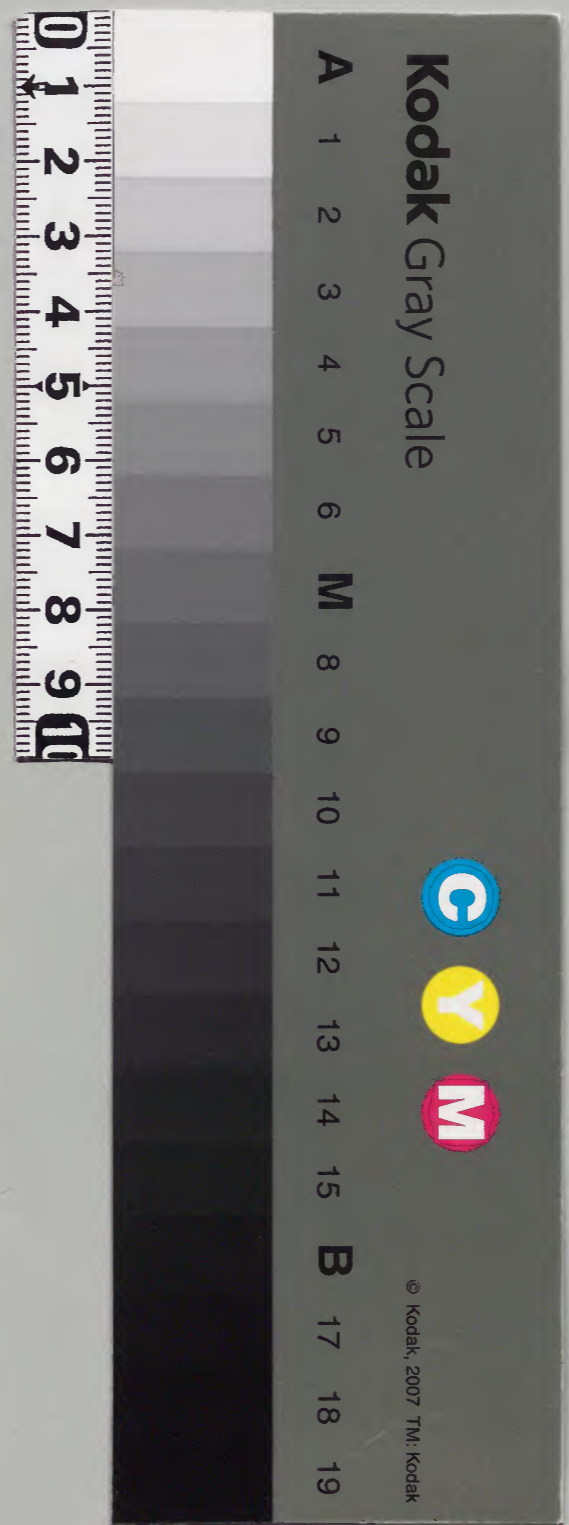
# 南路志

自又十三  
至十四 春秋

九	二	三	和
九	一	二	書
冊	冊	冊	門
類	類	類	類

五	三	和
九	二	書
冊	冊	門
類	類	類

内閣文庫	
番號	和 30024
冊數	99 ( 11 )
函號	176 43



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり

Faint red seal impression, likely a postmark or official stamp, located in the upper right corner of the right page.

南無阿弥陀仏

開國六十二年

三月廿三日

三月廿三日

三月廿三日

三月廿三日

三月廿三日

三月廿三日

三月廿三日

三月廿三日

三月廿三日

三月廿三日

三月廿三日

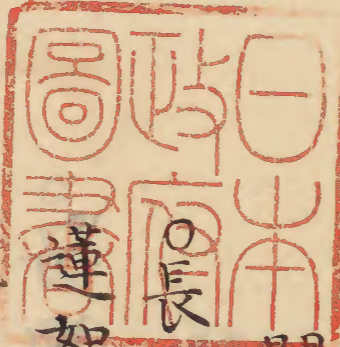
三月廿三日

三月廿三日

三月廿三日

三月廿三日

南路志卷十三秋 閩國六之三月録

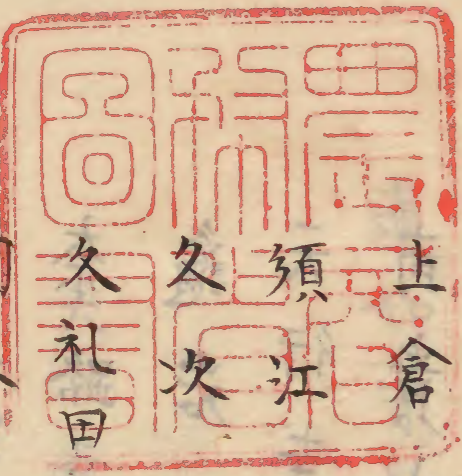


蓮如寺村  
長岡郡

下省  
村字

瀧本

三十六  
定林寺  
三十八  
白木谷  
五十五



上倉  
須江  
次社  
田

國八

六  
廿枝  
七十六  
新改  
七  
十四  
植田  
十五  
十六  
上野  
十八  
十九  
龍石  
三十四

目

笠之川

三十五

八郷

三十六

奈路 上倉郷

三十七

中谷 上倉

三十七

龜岩

三十八

東之内

三十九

天行寺

四十

入野

四十一

甫貴山

四十二

仕出峠

四十六

檜谷

四十六

穴内 上倉

四十七

黒瀧 上倉

四十七

〇四野地

四十八

南路志 卷又十三 秋  
闔國第六之三 目錄終

南路志 卷又十三 秋

何龍撰

闔國第六之三

〇長岡郡

蓮如寺村

地四百八十九石七斗九升七合

大日堂 蓮如寺西ノ上

阿弥院堂

土居御殿ノ下  
長岡寺中

若長寺我部以代長

粟奇下云有退轉以崇斗 孫由

天滿天神社 連如<sup>西</sup>西<sup>二</sup>日<sup>古</sup> 九月<sup>古</sup> 別南<sup>西</sup>之奇

社地云代官林十<sup>古</sup>名<sup>古</sup>換十<sup>古</sup>名<sup>古</sup>云里人<sup>古</sup>此地<sup>古</sup>

津北より小清水の里を略す

蜷川新左衛門親長入道道標宅地連如古面

道標と云ふ此字道也 元弘云連如と好也

孫云此の字標と云ふ 孫云と云ふは

村小名云此の字標と云ふ 孫云と云ふは

孫云と云ふは

豐岡大明神 小古古傳山

嘉元八月九日官林市代 嘉元十<sup>古</sup>名<sup>古</sup>南<sup>古</sup>十二<sup>古</sup>名<sup>古</sup>内

以代地<sup>古</sup>社地

若宮 如社<sup>古</sup>

式社考曰在小野村里人號豐岡大明神

姓氏錄曰小野朝臣天足彦國神人命之

孫也重遠按饒速日命三世孫天忍男命

娶葛木姓祖斂振命女賀知姬生世襲

足姬命孝照天皇立之為皇后生小野

祖天足彦國押人命及孝安天皇出當社

鄰村有葛木社斂雄社比郡賀奈知村

亦亦有社意亦有由緒予時曾其奈味其

阿弥陀堂 會九月十五日

神母 郡人氏若親以天皇

古城 曰大香河五郎次郎親和居之

親和 後州多交津而多務山城之主河津務

か彌 信系多ふ天正十一年香河の家滅

亡し 响の後の少多村子梅江在國大野村

此の地は

此の地は

此の地は

### 定林寺村 地二百三石

東限小野村西限瀧本村南布師田村北限蒲原材東西十三丁南北五丁其上黒砂泥。山寺山長取山立岩大岩不動取岩藏燒九懐柳佐古丸岡長尾柳古平石天一山谷大カ谷芝ノ谷甚々谷野津古谷、菴カ谷柴カ谷南谷西谷北谷中谷、鷲ヶ谷、負子谷、

若一王子 定林寺 多礼九月九日 高南西之寺

此床の宮宮林 此の宮換十石宮

宮 津後納不 社地之代

薬師 毘沙門堂

地藏 ヒカイノ堂 堂無

天市權現 天一山 宮林四向四方

神母 池床 池御 多トソウと年

○川ニ

定林寺川

毘沙門瀧ヨリ

東ニ飛田関ニ

流

篠田川

谷々ヨリ出南

ハ流蒲原

川ニ入

○関

後之藤関一日加

比堂関

○池

平石二十間四方

池ノ下地蔵

岩

○淵

平石ノ下ノ神

子ノ淵

阿弥陀堂 トツ寺中 合九月十日嘗座一代  
野津子 定林寺 社地二代 今社無

瀧本村 地二百石

東限蒲原村西一宮村塚南限布師田金山北限逢坂東西八丁南北四丁其黒砂泥  
山長土山、秋田山、坂根山、丸山、鳥ヶ丘山、岩女ヶ鼻、堂、奈路、久保山、大隅山  
田井田山、天狗岩、松ヶ鼻、堂、岨、押岡山橋、本山猿ヶ馬場焼力岩、鉢耳ヶ鼻  
生姜谷山、久礼岩、長口山、壁岩、金山。川、定林寺村塚、流、小川岩女関  
岩女関ヨリ南ニ谷々落合。関川谷関、中井関、国屋敷関、岩女関

六社權現 合九月九日禮、次十日又社地一代  
東河津、西河津、村、人、末松氏、若附  
神母 合、社地二代

橋、入道橋  
南角谷、大岩谷  
北角谷、北大谷  
西岩屋谷、東古  
屋谷、西菅  
菅谷、吹谷、  
美曾谷、橋谷、  
東谷、王子谷  
大ヶ谷

昆沙閔堂 瀧ノ殿 合二月二日堂座一代

棟札 天正七年霜月吉日新建立昆沙門  
天王住吉一宇 且那奏元親子息信親

勸進者阿闍梨榮音  
辨才天 瀧ノ殿 堂座一代 河野藤本林

瀧

奏元親公は瀧と云はるは瀧網原と云はるは  
瀧の系は結んまきれはるは瀧と云はるは  
瀧の系は結んまきれはるは瀧と云はるは  
瀧の系は結んまきれはるは瀧と云はるは  
瀧の系は結んまきれはるは瀧と云はるは  
瀧の系は結んまきれはるは瀧と云はるは  
瀧の系は結んまきれはるは瀧と云はるは  
瀧の系は結んまきれはるは瀧と云はるは  
瀧の系は結んまきれはるは瀧と云はるは  
瀧の系は結んまきれはるは瀧と云はるは

或云西洲知事は龍を獲らんとあつたに細て  
ありとて又此世の明証はしきりしきりあや  
らぬ多神毎神の奥まき西洲知事のはげ物馬  
又之後、洲知事ハ今新町の屋敷に居たり  
山師を濃知事といふ

○淵岳志曰昆沙門堂ハ長岡郡瀧本村ニアリ  
昔ハ真言宗大伽藍也ト何ノ頃ニ退轉スルヲ  
知ラス御城下江廻リノ草取歌 瀧本ハ外カラ  
ミレハ小寺ナリイリくテ見レハ名所大寺トウタ  
フハ是也今昆沙門ハ一宮ノ別當善樂寺ノ預

ナリ 昆沙門堂ノ後ニ瀧アリ 高十七間幅三  
間許水常ニ多ク崖石ニタキリテ 落ルアリサマ  
サナカラ白布ヲサラセルカ如見事ナルヲ云ハカリ  
十二ナシ中程三段水溜リテアリ夫ヨリ又右ノ方へ  
落ル也 其中段ニ龍ノ駒ノ足跡トテ山石ニ大ナル  
馬ノ蹄ノアトノ如ククホミサリシ跡ニ云ハカリ

瀧本寺 退轉 南之坊 岩本寺 上之坊 下之坊  
小谷寺

白木谷林  
此百十二百廿一廿二



白木谷村

地百十二石九斗一升五合

地藏堂

馬場 會日八月廿七日堂座二代宮林

二十六日午後三時

十三社權現 十二日

多礼九月十九日社人 与 又 社地 二代宮林

三千石 横 坊 坊

稻荷大明神 境内

仁井田大明神 上

宮林廿三日横廿二回

地藏堂

源ノ如 會日 月 坊 坊 堂 座 二代宮林 坊 坊

瀧之宮牛頭天王 源ノ如 多礼九月十九日社地

三代宮林 坊 坊 横 十八日

土合林

此五十二石八斗六升六合

上倉村

地五十二石八斗七升七合

仁井田大明神

祀元禄 享祀九月十八日 社人吉田

社地五代田代十代 享祀 宮林二十石四斗

大神宮 境内

木落權現

キヲ子 享祀九月廿九日 社地三代宮林十四石

地藏堂

廣徳寺 享祀十月廿四日 享祀 一代社人八斗十石

地主權現

大坂里村 享祀九月廿五日 社人吉田

社地一代 享祀 宮林四十石 横三子石

薬師堂

西尾 享祀十月十日 享祀 二代

阿弥陀堂

桑ノ川村 享祀二月十日 享祀 二代

林 寺 横十石

地主權現

地主 享祀九月十九日 社地一代宮林

三十石 南水十石

大神宮

ホウノ森 元文五年 仔野 幼法

瀬戸明神

セト 享祀九月廿九日 社地一代宮林十石

元文二年 氏子 忠三

十石

元文二年 氏子 忠三

廿枝村

地七百九十一石二斗九升七合

*Faint handwritten text, possibly a title or reference number.*

*Faint handwritten text, possibly a date or location.*

*Faint handwritten text, possibly a name or title.*

諏訪大明神 新念正永永礼六月九月十日

宮原林共 東西十二号 南水二十四号 北水三号

田島新田村 北水三号 南水二十四号 西水十二号

大元親時代 北水三号 南水二十四号 西水十二号

大元親時代 北水三号 南水二十四号 西水十二号

大元親時代 北水三号 南水二十四号 西水十二号

大元親時代 北水三号 南水二十四号 西水十二号

大元親時代 北水三号 南水二十四号 西水十二号

大元親時代 北水三号 南水二十四号 西水十二号

大元親時代 北水三号 南水二十四号 西水十二号

大元親時代 北水三号 南水二十四号 西水十二号

大元親時代 北水三号 南水二十四号 西水十二号

大元親時代 北水三号 南水二十四号 西水十二号

大元親時代 北水三号 南水二十四号 西水十二号

大元親時代 北水三号 南水二十四号 西水十二号

大元親時代 北水三号 南水二十四号 西水十二号

新田之先見... 源氏... 流... 河... 上... 之... 義

若宮 境内林半 神明宮 同

牛頭天王 天德 弘和九月九日高野山坊僧...

此地十玄代新田市九代山家立親時代之形... 有之 西里地 市校 南村氏子...

神明宮 境内

聖觀音堂 西高野山寺子紀 會日六月十八日

大將軍 別松 弘和九月十日 高野山...

此地西宮山南島林... 立親時代之形 新田...

上本枝村地... 弘和...

八幡宮 法... 弘和...

此地西宮山...

神母 天德弘和十月... 弘和...

右市 弘和... 弘和...

田島寺 真言宗

本尊 寺領一石六斗一升七合

熊野權現 境内

須江村

地二百七十五石七斗六升三合

大日堂

光藏院 山内安祥院守り 崇徳七年

延長元年 相承 延長元年 延長元年 延長元年

延長元年 延長元年 延長元年 延長元年

高賀茂大明神

延長元年 延長元年 延長元年

延長元年 延長元年 延長元年 延長元年

延長元年

若宮大明神

延長元年

神明宮

延長元年 延長元年 延長元年

延長元年 延長元年 延長元年 延長元年

延長元年 延長元年 延長元年 延長元年

大明神

延長元年 延長元年 延長元年

延長元年 延長元年 延長元年 延長元年

延長元年 延長元年 延長元年 延長元年

延長元年 延長元年 延長元年 延長元年

延長元年 延長元年 延長元年 延長元年

延長元年 延長元年 延長元年 延長元年

ススボリ  
ナリノ

誤  
ナラン

大明神

延長元年 延長元年 延長元年

延長元年 延長元年 延長元年 延長元年

延長元年 延長元年 延長元年 延長元年

延長元年 延長元年 延長元年 延長元年

延長元年 延長元年 延長元年 延長元年

延長元年 延長元年 延長元年 延長元年

正八幡宮  
有宮大明神  
三丁丁程裏  
傳古宮  
有之依

有宮大明神  
三丁丁程裏  
傳古宮  
有之依

正八幡宮  
上改田村  
多丸九月十日

地藏堂

新改村  
地三百六石五斗七升三合

熊野三所權現  
改田村新改

珍代地印賣物之略  
此書新編為記  
上野權現  
天寶三年  
牧后田少輔  
續文  
何也  
此  
一  
五

新中社  
敵入海  
持新  
也  
下  
与  
熊野權現  
島本  
島本  
島本  
島本

之傳史方亦ノキニ成

尚社山王権現ノ唱所、要紀州能仁寺功持

以宮ハ新宮之福寺傳新宮寺、即北山寺佛

付別當所當有之七知、三山ノ山王ノ出

言ノ所云新ノ地持持ノ山王権現ノ有之

又如是言ノ有之、正保四年年ノ宮御受

之宮内所承之、表、権現上棟勝福寺

鎮守延文五庚子阿闍梨公覺見ノ有之

棟札文祿二癸巳年十月廿二日上菅再與

山王権現精舎一字大且那右衛門太郎殿

願主隆惠

大工六郎兵衛  
鍛治孫左衛門

慶長十九甲寅二月廿八日南與山王権現

精舎大且那甲島兵庫小且那吉村

忠兵衛

裏ニ大且那ノ部ニ收指田新改治江ノ久

入理以村ノ流、新宮寺、今新ノ山王権現

如件

藥師堂 杉本 崇徳庵、成徳林、寺名、寺間

棟札 弘治三丁巳八月八日勝福寺棟上住持

任教本願向之坊任泉、寺名、寺間



慶長四亥酉相月十二日再興勝福寺本堂

且那住持任延

東坊長久寺 真言宗

本尊

以古勝福寺善緣寺新改村之者後由寺

合う長久寺と云

三所権現 油谷 九月九日 為南長久寺

宮原四代林古号横三号

弁才天 松本 祭九月九日社地三代

地藏堂 土居 堂原三代

妙見大明神

妙見大明神 祭九月十日社人三々

宮林十号横十号

観音堂 西谷 堂地一代

地藏堂 今九月廿四号堂原一代

長宗我部掃部今二子墓

掃部今切後の時二人の子息新改の地蔵に比

比江より 栢田の地蔵に比

比江より 新改の地蔵に比

新改の地蔵に比

新改の地蔵に比

切後平... 河原波川の邊り山家...

久次村 地石九十三石四斗四升五合

宇佐八幡宮 二推御家 祭礼八月十日有割当也

社人志多

権現 境内

祇園大明神 境内 社所也 柿古呂後少呂

阿弥陀堂 寺 今九月十日有祭

山神 西久保 祭大御前命 祭

神母 神母 祭

荒儿神 祭

植田村 和名抄殖田 宇惠多 地五百七十七石四斗三升四合

神樂一宮 同 祭

阿彌陀堂 同 祭

高賀茂大明神 祭

高賀茂大明神 祭

多岐風之三系柏沙後古來夕附系

高式社考曰在殖田村里人所傳及舊刻牛王

皆號高鴨夫守地檢帳稱加貝茂社蓋

與一宮同神或曰殖田即味鉏之義也三

蘇田代實錄曰貞觀八年五月乙丑授土左團從

五位下殖田神從五位上度會氏曰姓氏錄

云賀茂朝臣大國主神之後也大田田祢右

命孫大賀茂都美命奉齋岡賀茂神社

重遠按舊事紀大鴨積命磯城瑞離朝臣御世賜賀茂君姓續日本紀云神

護景雲二年從五位下賀茂朝臣田守賜

姓高賀茂朝臣蓋殖田大田語相近而來

號高鴨及賀茂比郡有美良布神社

疑大田田祢古命歟重遠又按殖田神社後山舊有若宮社社今七面

趾見存三代實錄所謂殖田上神者蓋此歟貞觀八年五月廿二日

乙丑授從五位下稱土人若宮

若宮大明神ムセカウ子祭九月廿日宮床古代

入神母少卿西ノ内三

阿彌陀堂妙典寺堂床云代云云

在棟札慶安二己丑年三月九日南無賢空地神南無五帝龍王

八神本願岡林專左衛門

八幡宮 在古橋 弘治九年十月十日 新座一代

河原新宮 弘治九年十月十日 新座一代

久礼田村 地七百二十二石三年二月

古宮大御所 弘治九年十月十日 新座一代

上野新宮 弘治九年十月十日 新座一代

熊野三取權現 古ヤダ 弘治九年十月十日 弘治元年

寺宮座三代林 弘治九年十月十日 弘治元年

多我額 南海和島 弘治九年十月十日 弘治元年

若宮 弘治九年十月十日 弘治元年

宮座三代林 弘治九年十月十日 弘治元年

宮座三代林 弘治九年十月十日 弘治元年

聖觀音堂 弘治九年十月十日 弘治元年

三体妙現 弘治九年十月十日 弘治元年

弘治林 弘治九年十月十日 弘治元年

弁才天 弘治九年十月十日 弘治元年

野神 弘治九年十月十日 弘治元年

在天寺 弘治九年十月十日 弘治元年

本田集 弘治九年十月十日 弘治元年

一初古衛門 弘治九年十月十日 弘治元年

弘治九年十月十日 弘治元年

久礼田御所

一條右衛門佐親政公

此地拾遺云ありと百々久礼田村と百々殿令八  
百々余乳人之類也  
今標乳人の親政君  
母堂り未詳

或云一條内政公、河川之邊、謀叛、  
ありし事、乃、其後、  
三、中略十一卷、  
廿六丁、詳、

河の邊、  
揚屋、

久礼田村、  
親政公、

久礼田村、  
親政公、

久礼田村、  
親政公、

久礼田村、  
親政公、

久礼田村、  
親政公、

久礼田村、  
親政公、

久礼田村、  
親政公、

植野村

地二百五十六石九斗一升三合

神母八幡地主 祭十月二日 社地十代

阿弥陀堂 廿代山 祭九月十日 堂在村北田方

經塚 才谷村 四代

藥師 嘉定

庄太郎殿墓 瑞多中村 祭七月十日

聖衆天中勸進者 三所權現 才谷村 祭九月十九日 社地云代田方

帝釋天 奉行小倉少助 下奉行池野七郎兵衛 祭 慈衆生者

大山藤治部山王權現 社在田方 祭十月十日 社地云代田方

杖 奉再興金堂一字大禮那源朝臣松平 土佐守侍從忠義公 祭 社在田方 祭十月十日 社地云代田方

鍛冶木原作左衛門 長福山延命院佐比谷寺 真言宗

加茂頻迦聲大且那大梵天本願住持 主梵樂 我芽今敬礼

神母天王 祭十月二日 社地田方 横田

二刀度

佛畢

上月承應癸巳天霜月廿八日入

國分村

國分村

和名抄宗倍 曾我倍

地六百七十二石九斗八升四合

熊野三所權現 延保九年九月八日社地一五廿代

神明宮 境内

弁才天 十部多 享保十年勅修

祇園社 延保九年七月七日社地一廿代

國分惣社棟札

國分寺惣社奉朝臣羽柴主左

侍從上四位下行元親同拾遺

補關從五位下盛親

慶長三戊戌七月吉辰同奉行

國分寺右衛門山本吉兵衛

池上手次右衛門 嘉右衛門

別當西之坊

棟札 慶安四辛卯年七月七日再造上昔

祇園社

惣社大明神三社

土左國中惣社也社地是也其多村之東、  
延保九年九月廿日勅修、因之、  
近以爲之社地也其多社地也社地也  
步枝村之、一豊公沙島附之、是也三年  
長宗我部孫兵衛之、其多社地也  
日本書紀曰朱雀元年八月丁丑爲天皇

體不豫祈干神祇辛巳遺奏忌寸石勝

奉幣於土左大神

尚於延喜中安於中野山別所村少寺之末  
所堂之於其詔曰

土州惣社大明神大願主衛門尉真長

敬白康曆元年八月十五日

野津子 ヒラメ 社地十七代 七月七日牛馬祭

摩尼山寶藏院國分寺 真言宗 醍醐報恩寺末

本尊千手觀音行基作 寺領三十石

聖武天皇勅願開山行基菩薩天平十一年

國分寺棟札

國分寺金堂且那秦覺世  
元親奉行吉川彦兵衛

御府四郎五衛門

元平戌午九月廿三日 是ヨリ下  
切テ不分

草創號二金光明天王護國寺一

聖武天皇天平十一年己卯詔有<sub>レ</sub>日本六十

餘州二國分寺建立境内六丁四方當國寺

塔最初ノ道場也

續日本紀曰孝讓天皇天平勝室八年冬十

二月己亥越後丹後丹波但馬因幡伯耆

出雲石見美作備前備中備後安藝周

防長門紀伊阿波讚岐伊豫土左筑後

肥前肥後豊後日向等二十六國國別

頒下灌頂幡一具道場幡四十九首緋網



二條以充周忌御齋莊饒用了收置金  
光明寺一永爲寺物隨事出用之  
同書曰神護景雲元年正月己未勅畿内  
七道諸國一七日間各施國分金光明寺行  
吉祥天悔過之法因此功德天下大平風雨  
順時五穀成就非民快樂十方有情同沾  
此  
延喜式曰正稅公解各廿万束國分寺領  
一万束  
○中興弘法大師 改真言

塔頭

中之坊 北之坊 西之坊 別當坊 一和尚  
右元祿三年之寺物也

本堂 新本建 長宗我部元經公上菩提造作  
忠義公宣公十年沙也

二王門 忠義公明曆元年造也三月己

鐘樓堂

鐘

堂 宣公二年住持松久造也  
大師堂 宣公二年西坊住持岩松

中つとや

山宗道天王社

禮昌

寺傳説云宗道天皇

あはれを武王宗道天皇の御孫中六年

豊后宮寺社傳説云一曰聖武天皇の御孫

中六年の御孫也昔は宗道天皇の御孫

の御孫と云均一邦國を治る民と云

中六年の御孫と云均一邦國を治る民と云

城は宗道田圃山林の陰界を巨一社社傳説

の御孫と云均一邦國を治る民と云

中六年の御孫と云均一邦國を治る民と云

宗道天皇の御孫と云均一邦國を治る民と云

宗道天皇の御孫と云均一邦國を治る民と云

宗道天皇の御孫と云均一邦國を治る民と云

宗道天皇の御孫と云均一邦國を治る民と云

宗道天皇の御孫と云均一邦國を治る民と云

楠神 秋葉山 弁財天 山王権現

宗道天皇の御孫と云均一邦國を治る民と云

國分尼寺 古跡未知

續日本紀曰天平土年己卯天皇右  
光明皇后六十余州國分尼寺建立

龍橋子尚於此傳京村 坂形山家 里人 隆橋寺

と云宗道天皇の御孫と云均一邦國を治る民と云

種梅をのほこしと云ふは古くは徳和の文也  
年々入種すといふ田地に於ては此の  
より古くは予と推して種をうへる  
ありき其比に村より出る尾と同一梅と  
種梅を誦す古くは尾とありしあり  
みよき名に谷地山法華寺と記すありき  
と云ふ説はありき如くありしはありき建  
る所は尾の寺なり。唱ふはありしあり  
と云ふ説はありき尾の寺にありしあり  
に一里を隔ててありしありしあり

ある村のホキに種梅を種すといふあり  
園に尾の寺ありしあり。此の尾の寺ありしあり  
原村と指すは田舎の種梅を種すといふあり  
ありしありしあり。尾の寺にありしあり  
と云ふ説はありしあり

○鳥古尾 和名フルカハラ 本草紀聞曰筑前大  
宰府ノ都府樓ノ尾古キ也其レテ後世地中  
ヨリ掘出スコアリテ硯ナトニスル也至テ尾堅ノ  
尾モ大也日本ニテモ此太宰府ノ尾第一古  
次ニ大和ノ奈良橋寺元真寺ナトノ尾凡千有

余年ニナレト云其形布目又一々字アルモアリ  
寺名ノアルモアリ

當國古瓦出所

安藝郡奈半利村

田字エ、ロクノ寺 同土居屋敷 野友トヤレキト里入

長岡郡女良村若宮大明神境内女良野

同郡篠原村鐘樓堂跡

田字坂折山前

同郡國分村國分寺境内

同郡比江村官舎跡

土左郡秦泉寺村秦泉寺跡

鼓山至楚尾茂大勢所及村園次且漢入正亦  
然其至西面此前隘内塚等擬林身林  
土左郡真曰白字其前中東園亦氣遠西  
日園亦興地至四時特古原外亦地其田亦  
中秦乃水鉢等類番林卦前中林鉢容  
古園亦跡林對山亦曰古鉢姑也今天五年  
益身自亦時乃園亦林園今寺跡應此五林  
才秦乃寺宗時暇豐同姓乃其岡眼也時林  
神隱寺口此二園今八節三林長宗時少中葉  
此亦林之跡亦其前中東園亦氣遠西

比江村

幽考曰比江國分八幡三村是宗部也中葉  
秦氏居宗部鄉豐岡城以長岡郡宗部稱  
長曾我部氏國分村國分寺在處比江村  
古國府也村後山有日吉社故為名天正年  
中秦氏地檢帳題當村作衛府中村南有  
國廳蹟地圭四段許古瓦小片出其田底  
土人謂其田字於府中東國府屋敷西  
惣社近世近國分寺境内北有名内裏等跡村良稱  
道仙屋敷有大礎石受柱圓穴一且二尺五寸

深三寸於其中間又構小穴一且五寸深三寸  
此處亦瓦片出皆非近代物往年里人  
掘得重菊全紋瓦云

日吉山王權現 比江山 祭礼九月十日別當永原寺  
津主法隆寺 祭礼九月十日別當永原寺  
乙卯年引述又公文何系如之

熊野三所權現 比江山 祭礼九月十日

才神

神明宮

右記社之社床亦其代即矣 宮林二年九月間積十

長岡郡

長岡郡日江村山王社願文 今大路道三九勳  
今茲七月下命使元勳治土佐疾病已除八月  
十有八日雨新晴發高知山下行比江村其夕  
亦雷雨一過從是前途諸川皆漲信宿比江  
以消日就審後山有山王大權現社元勳在  
東武住永田埒同社之東異邦奇遇謂之  
得其時哉忽攀丹墀謹上哀曲

前民部大輔兼前典藥頭入道橘朝臣

謹白山王大權現者王畿之鎮靈縣官之  
尊崇也取所在或因神託以移靈麗又  
一表丹心而仰仁風忽聞比江固擁神  
趾歸然已存靈宮元勳信高知也盛鄉  
已豐及公病平也護送亦隆今到比江雨  
氣濛々山徑暴流畏途未通信宿偃蹇  
無所置躬前路懸崖羊腸崎嶇馬蹄不  
用荷物皆從時及實洛多事田租信宿  
延滯消日禺々無為空費一力夫更勞皂  
隸吾心若茶不論歸期之晚徒患田畹



紀子舊趾碑

篆書 豐隆公御筆

あつたせふをいふとふかきまゝの  
はつたせふをいふとふかきまゝの

日野權大納言資枝

世皆稱紀子者和歌之仙也事於延喜聖  
朝為御書所預名貫之夫上世有柿木大  
夫者和歌之聖也斯道于時大振後之業  
之者綿々不絕及彼聖代其風繼與今  
紀子撰古今和歌集序亦成矣其說固  
和歌之教誠也有詔吏撰新撰和歌集

傳曰延長八年出為土州刺史時幸無為  
治事之餘暇漸以撰定之承平五年秋滿  
歸于京師民皆戀其德迄今不稱他為其  
刺史者言必稱紀子且或有彼序說教  
誠傳半無穴躬存跡今猶存焉其北則比  
江山東數百步而有老松相傳紀子之遺  
愛也南有公廨之古場地相去纔數十  
丈嗚呼彼跡之微若存若亡頃有尾池  
春水者與高村自安同氏朝海併力  
欲刻石記請和歌於日野互相資枝鄉



又壑一語於余聊書其所聞以與之云尔

正二位清原宣條撰

右權少將源家具書

安祥寺跡

幽考曰日江村府中東彌賣塔寺有地名

延喜式曰正稅公解各廿万束國分寺料一

万束文珠會料一千束修理安祥寺宝塔

料五千束

長宗我部少親の墓從与豐后守志代院安祥

寺之再興一又覺世常加寺院の天文

二〇〇〇年建立安祥寺を改修通寺と号

道原寺跡

續日本紀曰孝讓天皇天平勝宝八年七月

癸酉土左國道原寺僧專住誅謗僧綱

无所抱忌配伊豆國

幽考曰日江村之良有號道仙屋敷田畝大

礎石圓穴亘二尺五寸深三寸於其中間又

構小穴亘五寸深三寸此處亦瓦片出

或云長我部少親久江村内道原村とあり

道原寺村之遺跡と云ふ一と標あり

古城

日吉

長宗我部掃部今親與居之

土左遺語曰元親欲以信親女妻四男盛

親以為已嗣長宗我部掃部今吉良左京

進親實苦諫不聽十月四日命二人切腹二

人國之凡牙團人莫不惜之

云云云云云云九月下旬帝名強次法中急

吉良與之始終事一付之云云云云云云

云云云云云云城善法中急

云云云云云云西新橋路の北り云云

云云云云云云西新橋路の北り云云

向云云云云云云云云

云云云云云云云云

云云云云云云云云

云云云云云云云云

云云云云云云云云

云云云云云云云云

云云云云云云云云

云云云云云云云云

云云云云云云云云

云云云云云云云云

寺の金身を宗和親王の廟に遷す  
親王の廟に遷す

或は揚子江にちて飯所の部を一切移す  
の部の子を移す

古峯山永源寺 乾峯院 旧彌乾 禪宗

本尊 寺領五反

享安二年 山内市正とて為す

伊勢兩宮 小社

八幡 小社

縮荷 小社

住吉 小社

白山大權現 小社

貴之月見松

○尾池氏筆記

一 官府ノ寅卯ノ方ニ丁余ニ舊礎アリ

一 同東ニ丁余ニ御門ノ前ト云アリ

一 南ノ方三丁斗ニ宝塔寺ノ跡公廨屋敷ト云有

一 東ノ方四丁斗ニ觀月松アリ

一 北ニ日吉山アリ

一 石清河一名國分川水源北ヨリ出官府跡ノ東南ヲ廻西ニ流海ニ入

一 石清川ヲセキ水ヲ曳テ田地ニ掛ルラ國府渠ト云

一 御門前ト云ハ今永源寺ニ至ル道ノ東脇ニ有昔官府ノ門爰ニ有トソ

一 礎石ハ官府ノ跡ヨリ東ノ田間ニアリ南北ノ長九尺幅六尺四寸余柱穴亘リ二尺六寸余其中ニ又亘リ四寸深ッ三寸斗ノ小キ穴有先年カヤウノ旧礎アマタアリケルヲ川普請ノ

時取用テ只此石ノミ残レリト云又或説ニ此

大礎ノアル地ハ昔ノ寺跡ニテ塔ノ楹ヲウケシ石

ナリト云寸法大概大宰府ニ残ル大礎ト同

又過シ頃當村ノ土民官府ノ跡ヲ耕シケルニ

一ツノ石ヲ掘出ス亘三尺斗石エヲ不用メオノツ

カウ方ニ平クナル石世是ハ官府ノ旧礎ナルヘ

シトテ家ノ傍ニ居オケリ今重藏ト云者ノ

前ニアリ

一 宝塔寺跡ハ南ノ田中ニ小キ木林アリ里俗是ヲ高野堂ト云又其西ニ公廨屋敷ノ跡ト云

一貫之觀月松石清川ノ東ノ岡野地村ノ内ニ  
アリ此所ノ地名ヲ月ノ木ト云其西北ヲ松ノ表ト  
イフ是官府ヨリ見ル所ニヨリテ名付ルナリ  
中秋ノ頃此松ノ梢ヨリ出ルヲ見テ愛翫玉  
フト云傳近年古松枯ケルヲ里俗其跡ヲ  
失ハニトテ松ヲ植繼ケルト云

龍石村

地三百八十八石五斗三升三合

帳冊

一頁

茶宮八部

天満天神

昔御殿 弘和九月廿七日御入

王社地三千代林ノ中宮横十間

千手觀音堂 観音御殿 弘和九月十日奉立

代田寺 林ノ中宮横十間

昌住寺跡

開山堂 善休和尚像 弘和元年

今曾六月廿四日... 十代林... 乃... 此...

藥師堂 其崎村 西表 會九月十日 而南方...

十堂... 十代林... 二...

王王權現 島 祭九月九日 乃...

若宮八幡 社地十代林...

一乃度

神母

若宮林 此三百八十八...

笠野川村 地三百四十二石七斗三升四合

神母 此...

愛宕大權現 愛宕 祭九月廿日 乃...

藥師堂 社地...

弁方天 寺家 社地云代 池...

古城

八幡宮 古城山 宮林...

仁井田明神 南山田 祭八月十日 乃...

八幡林坊名横七石

妙樂寺 真言宗

本尊

春日大明神 瀬戸郡高松九月十五日高松市高松二間

薬師堂 寺家會正月十二日妙樂寺支配寺本

二代茶田地古代家附昔々寺 及寺内毎

月一七日院主孫与寺与寺内毎

地藏 寺正 會九月高松林坊名横七石

神母 留

山神 瀬戸 三石四十二石七十三石

馬骨石 笠川山上 有寺 夫石 寺内

音并天御林 田中 寺内 寺内

八郷食村 上倉郷 地七十三石

正八幡 寺内 祭礼年中延九月十九日社人會

別當妙樂寺 社地 二代茶田地 二子代地中

別當林寺古寺南小 二子代茶田地 二子代地中

八幡坊名横七石 八郷食村 寺内 一也

阿彌陀地藏堂 右ノ場林 會西月十番寺本

三代

垣衣石

名切御殿ノ内ニ有リ

奈路村 上倉郷 地七十四石四斗八升七分七合

當社大明神 田中 祭礼九月十九日 社ノ裏ニ有リ

社地三代田代十石代 宮林十石 南ノ山ニ有リ

此上ノ山ニ有リ 寺ノ林ニ有リ 宗ノ寺ノ裏ニ有リ 社ノ裏ニ有リ

社ノ裏ニ有リ 祭礼九月十九日 寺ノ裏ニ有リ

大日堂 祭礼九月十九日 寺ノ裏ニ有リ

寺ノ裏ニ有リ

觀音堂 寺ノ裏ニ有リ 會西月十八日 寺ノ裏ニ有リ

十九日 寺ノ裏ニ有リ

藏王權現 小畑村 祭礼九月十九日 社ノ裏ニ有リ

社地一代 寺ノ林 寺ノ裏ニ有リ



中谷村 上倉郷 地二十七石八斗二升八合

阿弥陀堂 杉本 會二月十五日奉辰一代林十石

八石

仁井田大明神 宮、谷、多、礼、九、月、十、九、日、社、人、多、多、史

社地二代宮林十石、横、字、宮、田、地、八、代、丁、史

米、四、斗、地、中、八、石、礼、用

棟札 天正十三年三月吉日造立仁井田大

明神本願 珍幸上人

大神宮 古壇内

山神 夕カトリ

新田大明神 宮、七

龜 岩村 地百三十二石一升五合

清河三昧明神 立石 多、礼、九、月、九、日、為、南、才

神、多、礼、九、月、九、日、社、地、十、二、代、如、社、宮

宮、林、二、年、間、宮、方

田代十代 比下分

愛染明王 龜ノ山 會九月十日 寺在 寺代之定

青林十代 寺

古城 龜ノ山 豐永彌九郎居之

同 坂元喜三兵衛居之後元親之時

中島源兵衛居之

若宮 大月川 宗九月十日 社代二代

神母 大月川

阿弥陀堂 大月川 會九月十日

權現 大月川 社代二代

東之内村 今日戸 地九十七石九斗六升  
山村

十二社 石京 多礼九月廿日 為高才所与社麻

此 権代代馬場 林内子 稗 三子 可也 社四人 以

而 権後 社 曾 忠 義 公 以 建 之 神 也

是 後 社 乃 為 高 才 之 言 以 其 草 部 之 社 也

知 所 地 事 之 社 也 其 社 曾 有 元 祿 二

年 之 社 也 其 社 曾 有 元 祿 二 年 之 社 也



厨子本願行慶

元和七年辛酉十月十六日新建立天行寺

薬師堂本願吉松左助地頭澤左京

尉同野中左兵衛

寛文四年甲辰八月廿八日新建立

鰐口銘

山王權現 大門御殿 祭礼九月九日 為方方者

此地之代北九尺 以而元親公造之天行寺村

百名余山之系之系 之謝意由之礼田村也

百名之礼之村 百名余部合之百名之礼之領

名之礼之田、地城之清祀母之唱之比祀母之領

月之 祭之礼之領

阿弥陀堂 古案作是祭 祭之日十月十日亦方方者祀

西之 祭之礼之領

山神 氏官服

天照大神 寺屋敷 享保年中 寺後細細領

大澤林

大澤林 大澤林 大澤林 大澤林 大澤林

入野村 地百八石五斗四升

アスボリ  
焯

焯大明神

焯山 祭礼九月廿一日 祭南新改村

山長久寺 北人南赤山十五丈 官庫四代村  
山官南赤山十五丈 官庫白川村。劫後  
治久寺。祭礼九月廿一日 祭南新改村  
山長久寺 北人南赤山十五丈 官庫四代村  
山官南赤山十五丈 官庫白川村。劫後  
治久寺。祭礼九月廿一日 祭南新改村

有宮大明神 祭礼九月廿一日 祭南新改村  
山官南赤山十五丈 官庫白川村。劫後  
治久寺。祭礼九月廿一日 祭南新改村  
山長久寺 北人南赤山十五丈 官庫四代村  
山官南赤山十五丈 官庫白川村。劫後  
治久寺。祭礼九月廿一日 祭南新改村

有宮大明神 祭礼九月廿一日 祭南新改村

山官南赤山十五丈 官庫白川村。劫後  
治久寺。祭礼九月廿一日 祭南新改村  
山長久寺 北人南赤山十五丈 官庫四代村  
山官南赤山十五丈 官庫白川村。劫後  
治久寺。祭礼九月廿一日 祭南新改村

南喜山村 地四百三十八石六斗

續日本紀所謂古道而通伊豫國宇摩郡馬立村經路也

延喜兵部式頭驛條下云五椅丹治川各五疋五椅南水通音也

牛頭天王 ムクシノ 延喜九月廿二日社人云多支社代

林孝信曾横年古留

棟札 延德次季壬子年二月十日上棟造立

天王宮且那佐伯勢真

山神 境内

山神 石神 沃ノ名 宮ノ名 仁井田名

釋尊寺 真言宗

本尊

永德寺跡

十一面觀音堂 水邊寺色持堂寺跡

今西月十八日堂屋代林十江間八

古城 元親番城後馬場惣右衛門居之

瀧 本切

燧石 南陽 竈間斗圍七八間斗の石之里人張

山 寺田火石 高場燧石

在宮大明神 正宮 一平山村 祭禮九月廿日社人源支

宮床五代宮林三丁八間横五十間

棟札 天文三年十一月廿八日棟上在宮宝殿

且那大中臣道延神主太郎右衛門

山神 平山村南林三十六宮横宮曰大之子宮林十四宮横二宮  
曰上杉地

安樂寺跡 平山村

若宮大明神 高古

地藏堂 曰

鎮守 地藏堂内

毘沙門不動堂 今水原

昔安樂寺云大伽藍江之孫高由

正徳年唐不知是所不動之別高之

之也江及安樂寺水原高之孫高由

十二坪高之孫高由高之孫高由

古年南東山以古之孫高由高之孫高由

古城 馬山村 南木山新左衛門居之

十二社權現 多我新川村 多我九月十九日 多我新川村

古社人之古史 宮床七代林平古宮横三十四

棟札 文祿二年癸巳三月十二日上棟造立十二

社大明神宝殿大願權僧都行竟

釋尊寺跡 多我新川村 西曆一千九百零九年申馬山村に於て

釋迦堂 寺跡 宮西月十四日 寺跡 床三代以迄

白賀大明神 白川 西曆一千九百零九年申馬山村に於て

白山白賀大明神 寺跡

若宮 境内

伊勢御杖 中庭

山神 中庭

祇園社 成相村 多我九月十日 社人之古史 宮床

古代林平古宮横廿二日 社中之古史 社人之

四尺五寸 鞆 社宮四万 茅草 社人之古史 社人之

社人之古史 社宮四年 忠義公戸山 社人之古史

社建之其後 宣文七年 忠義公戸山 社人之古史

社人之古史 社宮村 社人之古史 社人之古史

若宮 境内

阿弥陀堂 堂ノ本 會正月十五日 別當才谷寺堂床三



阿代林九間六間

棟札 慶安四辛卯年霜月八日新造立

阿弥陀堂大願主忠義公

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

仕出峠村

南木山郷

地三十五石九斗三升三合

龜谷大明神 龜谷 祭礼九月十日 宮座二代宮

林十八石四斗

河茂大明神 祭礼九月十日 宮座二代宮 林

十七石五斗十石

正観音堂 夕古 會正月十七日 堂座二代林三斗間

横十石間

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

檜谷村 上倉郷 地十石五斗四升六合

薬師堂 中御殿 合九月十二日奉成代林十石

山ノ横十八石

新田大明神 大御殿 合九月九日神主若左史

北原部代宮林十二石 南少中宮奉成代林十石

地十石如米

若宮 石カニ 山ノ宮

穴内村 上倉郷 地二十二石九斗七升六合

王太子権現 夕キノ上 合九月九日神主若左史

三平御校奉成代林十石 奉成代林十石

地十石如米

大石石見墓

山林 土御殿 四間横三宮林十石 奉成代林十石

地藏堂 堂ノ内 合九月八日奉成代林十石

物言石 経通より如右の山中奉成代林十石

此世 廣十官余人之言に能く又口許す川村の  
川陽より好勢あり流の勢勢石の新めりん

黒瀧村 上倉郷 地十七石八斗

新田大明神 宮ノ十口 弘永九月廿日社人志々

社地二代林界二官四方米七斗弘永九月廿日社人志々

大神宮 境内 元文五年勅語

地藏堂 西長谷今九月廿日社人志々

横井一官

西長谷

西野地村

神明

此山丸祭九月十五日此代二代宮係三子勤修  
山丸丸 山丸丸 山丸丸 山丸丸 山丸丸  
西野地村之新田之古社之此江村日吉社  
枝村牛頭王之神明神田村古社  
村之鴨之江村山田村山子宮之氏神  
之也

久江ハ  
久次カ

同 萩野丸

山神 陣山丸

神母

山丸丸 山丸丸 山丸丸 山丸丸 山丸丸  
山丸丸 山丸丸 山丸丸 山丸丸 山丸丸  
山丸丸 山丸丸 山丸丸 山丸丸 山丸丸

荒川神

萩丸 末松

野之神

岩田 長窪 陣山丸

白石權現

小竹龍丸

權現

藤原丸 社地五代

八幡 長窪

若宮八幡 横堀

阿彌陀

橋本丸 會日九月十五日

毘沙門堂

會九月十五日堂床一代

天神 横堀

天之神

子安地藏 篠原丸 會九月十五日

弘福寺 一向宗西泐

本尊阿彌陀

南路志卷十三

園圃六之四目錄

長岡郡

古田村 下省村字  
本山郷

大石

田井

汗見

北山

立野

古味

一 吉延

二 土居

六 中島

十九 寺家

二十 坂本

廿一 大淵

廿二 升尻

一

二

十九

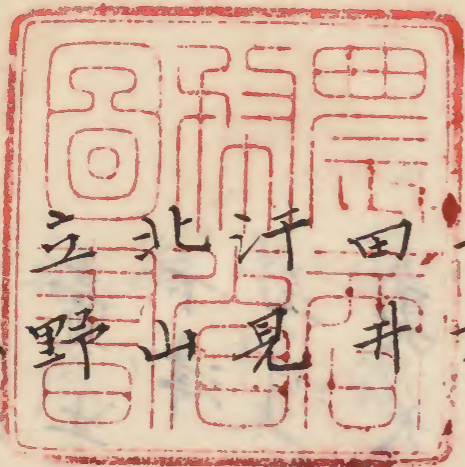
二十

廿一

廿二

廿三

目天





葛原	高須	敷岩	和田	尾生	奥大田	立川上名	下津川	賣生野	屋所
廿五	廿四	廿三	廿二	廿一	三十	廿五	廿五	廿四	廿三
下関	川口	日浦古味	穴内	谷	磯谷	立川下名	素野川	上津川	沢杵内
廿五	廿四	廿三	廿二	廿一	廿一	廿八	廿五	廿四	廿三

下土居	舟戸	西川	中村大王	前茂谷	小川	津家	高津野	木能津	上関
廿九	廿八	廿七	廿六	廿五	廿四	廿二	廿二	四十	三十六
栗生	中屋	黒石	菴之谷	楠木	馬瀬	杉	丸藤	伊野	下津野
廿十	廿九	廿八	廿六	廿五	廿四	廿三	廿二	廿一	廿七

目地

南路志圖國第六之四目錄終

目人

立野

五十一

八畝

五十二

南大王

五十二

怒田

五十三

大平

五十三

大瀧

五十四

八川

五十四

川升

五十五

中内

五十五

柚木

五十五

西峯

五十六

岩原

五十八

茂木

五十八

大窪

五十九

大砂子

五十九

柳野

六十

長淵

六十

桃園

六十一

連火

六十二

西窪

六十三

梶賀内

六十三

川戸

六十四

安野々

六十四

寺内

六十四

古味

六十六

南越志卷十三

南路志卷十三

園國第六之四 長岡郡終

何龍撰

○長岡郡

古田村 本山郷 地四十一石六斗二升四合

木トク口三權現 糸十月十日 糸十月十日

宮床二代林三十号 南子十八号

一



鎮守社

地藏堂 房五段 今正月廿四日堂座也代

伊屋佛 日

吉延村 木山郷 地四斗石一斗五升四合

〇是四斗

阿弥陀堂 房一斗六升 今正月廿七日堂座也代林十丁

十丁了

南地藏 卷十三

仁升田明神 房一斗六升 今正月廿七日堂座也代林十丁

社地三代之身 林十丁六丁 横十丁了

石神 房一斗六升 林十丁了 南十丁了

大石村 木山郷 地六十八石六斗六升四合

地主神 中山 今正月廿七日堂座也代林十丁

林十丁了

愛宕大権現 堂六斗六升 今正月廿七日堂座也代林十丁

大石 土居

四才名床也代  
如意輪觀音堂  
堂床十代林十子、女子

土居村

地三百廿一石八斗八升三合

十二所権現 谷多礼九有 九有別南東光寺

社人字方丈社地土代四所宮林之字南十子

棟北 慶長十五庚戌丑月廿八日新建立十二所

権現官 山内但馬守長一代官山内八五

右夕門豊行

若宮 妻匠屋敷 社地三代之寺林南十子車馬十子

東光寺 真言宗

本尊

地主神 七古味 書取也代女身 封回高林南十

天神 与若社地三代三身 一與回回也身一也

山神 山神林十子横子林十子

觀蓮寺 向宗東流

本尊阿弥院

本居

古城 有田下 本山佐渡守茂定居之 茂宗

同 土居 本山左近大夫茂宗同式部少輔茂

辰可將監親茂居之

自慶長六年山内刑部一照同但馬長一居之

自寬永七年野中玄蕃直捷同傳右衛門

良捷居之

自寬文四年山内下總豐吉居之

自曰十年六月曰十二年七月延乃子石小右衛門

元政居之

○本山氏、清和源氏末良の流傳ハ本伊典初也

高木子或城を築其子養明子子茂宗法名

梅葉子男或部が捕茂辰部より四代

或之知山左近大夫茂辰法孫子梅葉号

一七左近親信山重松より城を改稱し永

禄六年寅月十日城を築或部が捕主

領系山を築けり

出盡簡集本山氏系圖

本伊典

世領長岡郡本山事跡未詳

養明

土居

左近大夫

後薙髮歸梅溪時勢漸長大併吞  
 土左郡吉川郡及高岡郡少許徙住  
 于土左郡朝倉城尾立村宗安寺所  
 藏牌主云洋江院前豐州太守梅慶  
 宗春居士天文廿四年二月三鳥世齡四  
 十八歲逝去今按豐守稱稱不傳恐稱左  
 近大夫後稱豐州太守欣為  
 更詳

佐渡守

小佐渡守

右近 彦兵衛 喜左門

左衛門尉

三女 長宗我部勳解由妻  
 大石内藏人妻  
 柳内左兵衛妻

左門佐  
 右京進  
 二郎兵衛  
 彦四郎  
 二女 京名太郎 左門妻

式部少輔

娶秦國親女生三男二女梅淺沒後  
永祿初年為元親所敗舍朝倉攝  
于本山翌拒守多年使長臣吉井  
修理防敵於汗見西谷口修理共川  
村亦以戰中矢死兵權亦衰不能  
抗敵於是元親老母調和文武部去  
本山流高千阿波三好家妻子盡  
降時永祿十一年冬歟後元親遣

本山遺臣於阿波鷓鴣殺式少一

將監

太郎古衛門

天正五年丙戌徒秦信親討嶋津  
十二月十二日戰死於豊後國

内記

新右門貞茂

八助

少兵衛

二女

執行宗卜妻  
伊左木右門兵衛妻

土居

出或書本山氏系圖

○吉良次郎茂光

土州三未初ヲ本山ヲ領一城ヲ築

吉良伊典

家紋日扇

吉良明

左近太夫

本山梅慶茂宗

本山佐渡守茂貞

本山右近大夫

本山彦兵衛

本山喜左衛門

本山佐渡守

本山右衛門尉  
|  
本山左衛門佐

女二階勘解由宰  
|  
廿枝勘解由

本山大部少輔茂辰

室元親姉君

土居

女 伊予木右衛門室  
女 齋藤与三右門室

本山將監親茂  
本山内記茂慶

本山新右門 傳三郎

本山八助 本山宗伯  
本山七右門  
女二人

女 金子備後守室 称右門傳十郎

女 宿七甚左門室 宿七甚左門 仕干  
藤堂

本山次郎左門 女 仕干  
京都

○本山同名

本山阿房守 朝倉上殿

本山左馬丞 於西谷口討死

右門兵衛 源左衛門 八郎兵衛

本山紀伊守 下殿朝倉君親末業任

本山因幡守 南殿  
宋女 本山住  
左衛門進 又万住

中内記

土居 朝倉尾三任

中島新助 中嶋四郎兵衛

本山四郎左衛門

本山大郎兵衛

本山掃部 於豊後討死

村上權太由

伴野九郎左衛門 因幡任

西甚吉 朝倉西殿

或云本山或於が輔成辰に其禄を承け年月古  
新助倉の城一丈を搦と徳島山一楯籠り  
之をも内様く自由家され、又本山玉  
玉上きに成候百とて同月廿八日領家  
立と成辰まぬまよも本山の城を以て  
られ者も去れ永保元年於徳島山平女の  
都へて本山、又本山ありと派しられ  
しに、こゝろを改め新助の城を以て領  
家も極片 本山の城あり、又其城  
中を以て、又其城を以て、又其城

味方の軍兵を  
失ひ、其子も  
其子も其子の  
も其子の也



土語

花より元氣と養いのつゝるを水はれとも  
あつて花より梅あつて毎夜もをりといつてもあ  
まの計りなき無分別を去りて退をれえ  
親も退居して孫科をいひ破ける友子あ  
と以て之をわが家口の地を去るをうよや  
山梅をあつて原を元氣のゆに居ておれけり  
此をわが家にて 花より梅を去るをうよや  
退居して梅をわが家にておれけり  
地より梅をわが家にておれけり  
花より梅をわが家にておれけり

花より梅をわが家にておれけり  
退居して梅をわが家にておれけり  
地より梅をわが家にておれけり  
花より梅をわが家にておれけり

其のいりては勢の復其に和して成来て子  
而後其を養成して進教礼進了と上下用  
孝徳を以て成るるに道は女子を以て  
少なりと世にせんとて禮を統るる女子一  
山依はては成るるに和して成るるに  
左田土備後年海城版 陳子一承て中  
誦子子意の小事なり起して大我子及以骨  
肉同胞の存居之胡越の我を成るるに  
一和して成るるに和して成るるに  
を成るるに和して成るるに

其在和して成るるに和して成るるに  
とて其の和して成るるに和して成るるに  
の和して成るるに和して成るるに  
を成るるに和して成るるに  
其和して成るるに和して成るるに  
は和して成るるに和して成るるに  
らして成るるに和して成るるに  
て和して成るるに和して成るるに  
在和して成るるに和して成るるに  
了して成るるに和して成るるに

立城之好内中をたぐ終時高を信了  
して妻子を留置て送るべし附及了  
即ち是もたに吹動を主之堤七十三之石界  
何はのあつそ流直に了。殊に河州揚子江  
是は之好内中をたぐ終時高を信了  
一之此を好あそ一之むひぬと一之むひぬと  
の室にたあ此子高たると云ふ子孫傳子  
を授け給ふ神も主むひぬと。物子好望  
下に好信一之河内記の老るに足車色一  
られて蓮池にて好信の身を主之河内記

和泉守高元公に於て御孫を傳へ了  
廻りて傳下に任けたる此の承祿元年也山  
梅原外倉の神木伐り出さるに也七之  
丹に山家ハ本傳典より也代りて息  
乃能也一とて不之をあら

○ 孕石和泉守碑

前和泉守孕石元泰君之墓

遠州高天神没后天正九年辛巳三月

二十三日忠死

君諱元泰其族氏藤原初称主水佐俊

改和泉守駿州人父曰讚岐守光尚奕世臣屬  
於今川家曩祖原左衛門尉忠泰鎮遠州原  
田庄至干玄孫諱忠賴諱高忠忠恒統鎮基  
業弟高忠別始稱字石氏蓋因庄內有石  
石村也高忠子光高與門扞於貞和之際尊  
氏公持命之也自高忠至干乃父讚岐守光  
尚子孫相續兄弟相傳為七世也光尚助  
義元屠駿府陷方上葉梨城其功居多義  
元賞以足洗田光尚文武設備最善睿  
親系盡家譜班列庶道意欲俾後昆有

所慕劬也且諸將家印米地薄皆光尚之所  
傳也若少有志節義元奇之賜諱字及  
義元既已子氏真不能立事武田信玄信  
玄委以重事略地攻城靡不皆從可謂得  
驥足也駿州蒲原之役稱先登擊殺清水  
新七郎勇聞一時信玄甚美其功書勲行  
賞後應勝賴之指麾共里部丹波守元  
信守遠州高天神三州兵攻之三年而相持  
天正九年之春大軍蟻聚城下牢築三重  
木柵而急攻之既援道要截庚癸頻呼

二人相謀曰此昔曹報生死節之時也何坐  
至牛因極而不能寧弓執刃哉遽麾士  
卒而擊之君被堅執利殺傷無數既破柵  
二重元信戰死君割髀不違自殺而為虜  
矣東照神君愛惜其器用不訊者昔之  
所嘆而欲使翁其死以仕幕下乃使大  
久保忠世曉其旨君頓首答曰神者之恩  
高於東山深於蒼海然臣之義不忍負  
勝賴願早賜死寧死不朽矣遂使弓削  
多某檢其死尸削多姻族也故君請焉

三月亦二日城陷君之死節明日廿三日也勝賴  
余君之嗣元成迷公之職紛齋如故相州  
小田原之役元成屬井伊直政軍酒白口藤  
郭先登距城下被創殆瀕死矣所謂條  
廓即棄廓也後謁光祿君一豐公於遠  
州掛川遂徙遷封于土佐國忠義公嘉  
其門閥輔佐世子忠豐云也初君與元信聞  
高天神相謂曰今吾二人同志共死顧夫  
如有宿因焉歟禪若後人莫忘此義因  
約為姻既以其事報新府故元成之孺人

上居

丹波守元信之女也元成與子以加賀井正  
元為之嗣正元恭謹善官事輔佐忠豐  
公正元子元政始共知四政統領兵馬已  
有年矣當時君死事在倉卒不審墳  
墓斯元政繫念不止終起碑於州城南  
一里曰輪山畧歲次奠由是而行矣若君  
之一世其武功名節則史牒所載口碑之  
所傳可堪與哉余賞元政之孝思予一  
遺卒久遠聊贊鄙辭以備紀年事云  
時貞享二年龍集乙丑孟冬之日醒菴通

玄謹識

學子石元成孺人夫講平代岡部左京進親綱  
之孫丹波守元信之女也家世事駿州今  
川當義元遠族起兵時親綱竭力助之  
取邑拔城不可勝斗加旃棄花藏之所  
傳今川家往書以獻于義元義元稱其  
忠親書狀賜之天文壬寅三州小豆坂信  
秀所乘勝勇士七人稱七本鎗流勇無類  
元信等揚力排戰由是軍得不敗永錄  
庚申守尾州鳴海城既義元陷余于掃

上居

狹間首獲千信長軍信長武威益熾  
數攻取諸城而鳴海城不降獨尊會氏真  
欲令元信歸守駿府信長亦議和元信  
耻棄城欲去乃使人謂信長曰君候欲和  
議臣不敢許若令臣奉義元首以得東  
歸必如所欲矣信長亦許諾焉終送義  
元首以赴駿府道經刈谷攻殺殺城主水野  
氏九郎亦不以私千信長也後率武田信  
玄天正乙亥守遠州小山地城大軍攻之  
不降勝賴忠之已卯守高天神城相持

三年辛巳春出城戰死勝賴余子丑  
郎兵衛尉繼其職甲州已平子孫或仕官  
千越前備前等之候國初孺人父元信  
守高天神時與元成父元泰為姻婭  
約故嫁千孺人年十二竟永  
至申元成卒津為尼號真性院明曆  
丁酉二月四日孺人卒年八十有八葬城  
南日輪山  
○歸金山記  
土佐國長岡郡本山者國主等野中良

以上條文系ノマ

畦采地也其南北山間有小澗有小山  
馬北方連北山西南東方川水周流土  
色潤沃草木茂盛不可為道路不可  
為城郭不可為溝池非貴勢所集非  
耕犁所及也慶安四年良畦下母秋  
田夫人憂擇其宅非得此地矣葬幸  
悉用文公家禮也昔在中國河洛天子  
治喪不用浮屠洛人化之者一二人而已  
夫君子所居之地而化于正者幾稀矧  
海東數百載之後浮屠喧盛之時平若

良畦非免浮屠且善於禮矣余其良  
畦友善聞訃奔相其喪將葬良畦  
謀號其山余謂記曰父母全而生之全  
而歸之可謂孝矣夫人之謂也宜號  
歸金山於是年定矣柳膏按本朝  
欽明時仙法未馬文武時火葬始  
焉自是以降仙法日行神道日廢其  
間又有入鹿之亂舊古史煨燼蕩散  
喪葬之禮後世莫聞其詳伊勢之禁  
火葬是猶降古之遺風也火葬本出



土居

於羗胡羗胡之俗有葬法四焉一水  
葬投之江河取飼魚二林葬露置寒  
林取飼禽也三土葬埋之岸傍欲速朽  
也四火葬積薪焚之欲速化也甚哉  
胡之無道也夫葬也者藏也藏也者  
欲人之弗得見也擇其宅非觀山水驗  
土木防五患欲安同久遠也衣衾棺槨  
必誠必信欲厚斂歛之無使土親膚  
也其欲速朽此豈人之心也哉孝子敬  
其身不敢毀傷行父母之遺體也以父

母之身冰之火之林之人心所不忍聞而為  
之實痛恨之不如也五年之蔓嘉操筆于  
洛陽作婦全山記夫人行實既表其墓  
上故不復於此獨稱良楮之善以勵後之人  
因書火葬之所由述吾儒葬儀以正之  
云尔

四月日

周齋記

田井村

本山郷

田井

地百七十七石六年四斗七合

地主 一世川

祭正月九日高親寺社休三代

林四斗子、横井八斗

称名山普門院觀音寺 田井房 真言宗

本尊

地主

足祭正月九日高親寺社休三代

古城

祭元親出城

井ノ神

井ノ

林七斗子、横十斗

鳥居床

林三斗子、七斗

中島村

本山郷

地百四十八石五年五斗

三島大明神

三島祭礼八月廿五日

祭高親寺社休三代

中頭天王 天王祭正月九日高親寺社休三代

地主 林三斗子、七斗

汗見村

本山郷

中島 汗見  
地六十四石五升三合

地藏堂 四石

薬師阿弥陀堂 六石七斗

堂林十石八斗

堂林十石八斗

大日堂 三石七斗

三合大明神

後山 祭之日七斗

比叡庵林十石

地主 又 祭之日七斗

地

関

毒人

祭之日七斗

寺家村

本山郷

地百三十六石四斗三升七合

若一王子 古殿 祭之日七斗

社人切方丈社地十石

社二宮 社地十石

十不社傍山之傍本寺様子  
年曆不無氏後社欽八様石  
是又亦君上亦年  
曆十可曆少亦之  
聖教朱了也

昆沙門堂 宮様  
今月十日宮様一氏

北山村

本山郷今  
日栗木村

地八十石七升

地藏堂 寺古  
今月十日宮様三代林七了  
地八人

横也了

山神 戸  
祭十月十日社地  
代寺宮為車走与

林三了、四了

地主神 島知神

畑里村  
地主林

祭五日  
社地寺代寺

林三了、四了

仁升田大明神

様  
宮后

祭九月十日  
前南車走与

社地三代林  
廿了、廿了

多賀羅權現

ヲソミ  
三了

祭十月十日  
前南車走与

宮様衣林  
廿了、廿了

山神

様  
廿了

祭十月十日  
前南車走与

坂本村 本山郷

坂本 立野

地二十三石三年五斗

仁井田大明神 向為安 祭十月言為由親言与

社地三代林寺町亦有南本寺了

地藏堂 翌日午 今七月并写

立野村 本山郷 地十二石二年五斗三合

川内大明神 龍田堂 祭礼土月二日為由親言与

社地三代宮林三丁有南本寺了

大淵村 本山郷 地十八石九年三斗一合

地主神 祭九月十九日為由親言与社地寺宮林

三松字四丁

地藏堂 并寫 今有百廿丁寺堂林寺宮林寺寫

古味村

本山郷

地三十石七斗八升

大洲 古味

新田大明神

仁井田 前田 欽孝 寺社地三代林所  
寺町三丁丁高社名元唐中河内玉台勅法由唐

地藏堂 堂免

寺是月七堂林三高林三丁丁也

井尻村

本山郷

地八石三斗六升

藻師堂

堂ノ

今七月七日堂地三高林三丁丁也

地主川内神

堂ノ茶多礼土月 為由欽孝寺

社地二代林三丁丁也

屋所村

本山郷

地十五石一斗三合

地藏堂

堂免

林九丁丁核十三丁丁堂社名

川内大明神

堂ノ 祭土月九日 為由欽孝寺

社地三代林三丁丁也



賣生野 上津川

上津川村 本山郷 地十七石八斗五升

仁升田大明神 地主神 川内神 祭礼十月九日

社地寺代為多親言子 林寺所 四升

阿弥陀堂堂之 今七月十九日堂祭此寺林三升

植河十字

下津川村 本山郷 地六石五斗一升

薬師堂 堂ノ古 今七月七日堂祭二升林十字言子

川内大明神 口 社地为林五升言子

関

送子別十二里

栗川村 本山郷 地三石九斗六升四合



下津川 栗川

地藏堂 地蔵石 今月七月廿四日 栗川代林三子

丁三子

地主神 栗表 祭八月 栗川代林三子

社屋代

南

恒字初十初至

立川上名村 本山郷 地丑十五石一斗七升七合

下津川 栗川 代林三子

古城 川升丹後居之

東福寺跡 延暦年唐尼社

地藏堂 寺屋敷 今月七月廿四日 栗川代林三子

寺屋敷 今月八月

菴 唐尼社代 栗川代林三子

阿弥陀堂 今月廿四日 栗川代林三子

今月八月廿七日 栗川代林三子

八大龍王 今月廿七日 栗川代林三子

黒尾大明神 今月廿七日 栗川代林三子

寺屋敷 今月廿七日

三河上

橋掛大明神 中村 社地三代安永三年

水原中村

仁井田大明神 社地氏林

沙丁

喰石白山權現 喰石

別當皇樂寺 神体相長九寸半 初堂在  
之山名皇立孫一王上及村自土木地也  
抱石名皇立孫一王上及村自土木地也  
橋掛を指す神体也 中村 喰石上  
喰石也 橋掛を指す神体也 喰石上

子氏の為人 喰石 喰石 喰石 喰石  
喰石 喰石 喰石 喰石 喰石 喰石

○淵岳志曰 从以志權現ハ長岡郡久以志山  
絶頂方レ平カナル所ノ岩上ニ立テ御尺九寸  
許ノ銅鑄仙也 靈驗奇瑞多ケレハ里民祠ヲ  
建立シ石垣ヲ築シカ其後祠ハ十間許谷投  
落シ石垣モ崩レテ本ノ如素裸ニ岩上ニ立テリ  
此ヨリ神慮ニ不叶ク知テ祠ヲ不建トカヤ又久  
以志山麓ニ此神ヲ禊リ守ル百姓助大夫カ世  
伴或時神体ヲ盗ミ伊兵四ヨリ来タル商人ニ

此卷神社花、喰、如  
撰、回ヨリ、集、詣  
坊、卷、寺、は、様、相  
シ、七、成、年、八、月

立川上

吉賣ルカ助大夫カ伴ハ下干悪病ヲ引受形  
休ムレテ死ス奇人ハ讚州一持行富ナル百姓  
ニ賣ルカ買見百姓其夜ヨリ傷寒ノ如ク煩  
升以志ノ帰ントテ立騒キ又家内不思議ニ  
思ヒ久以志ヲ尋ルニ漸土起、本山ナルトヲ聞出  
シ久以志ノ送り返セシトカヤ

立川下名村

本山郷 地七十四石七斗七合

天神  
正八幡

河内

祭礼九月九日分菊丸、由多、社地

六代林、町十四丁、南十四丁

棟北 寛正四年十月再興上棟 寛明主福  
島

渡野権現 境内

薬師堂 宮林内 堂主林代

四社住吉大明神 井多祭礼年中六反別當

豊樂寺社体七代林四十六万、四十許

但正月二日之祓事、是日始として川井家迄  
初地下の人数等、お守万々之村礼有

棟札永正於一歳甲戌霜日十一日上棟住吉

四社大明神 佐伯實光大法師 亦乃惠

敬白

善徳大明神 未社

棟札永正十二年乙亥棟上金輪 聖王 以下

古城 川井勘解由居之

阿弥陀堂 井多 命日正月十一日堂代三代許

林本所二十許、十八字豊樂寺持

八幡 井多 権守

五社王子権現 カリマ 祭礼九月九日 別當

豊樂寺社体一代田舎林廿七字、十二字

或云性者、古くより下名村、後下は似て

住むひり、はよりて、元來、此所の氏

神と山字、久しきにわたり、神酒を傳へ、

川の江の海よまぬ、思て、みりより、地

元來、く似る由

立川下

丁谷

八大龍王

仁井田大明神

大師堂 丁谷

三体妙見

聖權現 中谷

地主權現 柳橋

延喜式頭取條云五橋丹治川各五疋

按五橋八榊木也  
丹治川八立川也

此乃人持切米三石留石

川并惣五疋

東山法古五疋

奥大田村 本山郷 地六石

三体妙現 法事于後 祭年中三度分菊豊果古

為社名奥大田郷人左川傳左馬先祖隆念分

勅請之由

十二社權現 以事不後 祭年中六度社祚八代

林早守 三十五岁

荒神 宮社中 座王權現 日

惣山神 日

三川下 真大田

地藏堂

向五反

今十月撰日

関

信言知十部里

主人

上人持切茶衣  
不形若此石

赤名源十郎

碱谷村

本山郷

地十八石一斗四升

地藏堂

多我

今每月廿四日豊立寺持堂撰

三代林拾子男

真聖權現

今礼年中四夜由高豊立寺

荒神

境内 享保十六亥年新建立

尾生村

本山郷

地三十八石三斗九升

地藏堂

寺

豊立寺持堂地三代林八百

三体妙現

今礼年中四夜者撰社地

三代林拾子男

谷村

本山郷

地四十石

磯谷尾生谷

十二社権現

スミヤ 多礼年中之友高田豊永与

多礼考撰社地氏母亦与甲方

棟札 大永四甲申年十一月廿五日棟上

且那藤原國貞本願有定佐伯赤吉

荒神 スミヤ

山神 スミヤ

十一面観音堂

堂敏 金堂月十六日堂地三代林八与

抄写有出字持

和田村

本山郷 地六十五石九斗二升

阿弥院堂

約ノタヒラ 北王様内

今堂月十八日豊永与 取配

正観音堂

カゲ

今堂月廿九日 堂地三代

古佛壇 元文二年再興

八大龍王

約ノタヒラ

多礼年中之友社地三代林亦

写ハナシヨリ高田豊永与

穴内村

本山郷

地十六石九斗四升七合

和田元内

三体妙現

カケ

多礼年中古友社地寺代也

林本寺、亦寺

棟札 永禄十丁卯羊十可朔日上棟三大

妙現社本願佐伯氏賀

末社 有宮 山神 若宮 明神

多礼 三体古日社床一代古林 亦寺

亦寺 別當 亦寺

敷岩村

本山郷

地十石三斗八升七合

新田大明神

仁井田系礼之友社地一代林大系寺

地藏堂

ニヤント

合字自井田系礼寺身林之寺

亦寺 豊原寺 持家永七 亦寺 亦寺 亦寺

比浦古味村

本山郷

地六十九石九斗三合



敷岩 日浦古味

六社聖權現 午 先年日浦村、有之天祖三年

本村に初詣

正觀音堂 今年申午度堂社床古代里身

林六丁、女丁

六社權現 古住村 申礼申申申社地夜林

丁丁丁丁丁

正觀音堂 古住地申今年申 申社床古代

地藏 古住

高浪村 本山郷 地十一石三年三斗七合

大元天神 申申上 申礼申申申申申申申

聖權現 社床古代

馬頭觀音 古住内

地藏堂 寺用上 今年每月申申申申申申申

丁丁丁丁丁

川口村

本山郷

地四十八石二斗六升

高嶺 川口

馬頭觀音堂

古王在會方日寺堂本民屋

林十石三斗

新田大明神

フタツタ 弘安五年正月廿五日

山神

カケ 池ノ本

葛原村

本山郷

地六十四石七斗六升三合

藏王權現

弘治元年十一月十三日

寺社地二十九代寺林亦七石二斗五升保十六

羊三月十日社壇失火後再興

大明神

弘安

系右内日寺林六代林三十石

横十石

棟札

貞治戊未六年大明神

不見

阿弥陀堂

寺村

今二月十日寺堂本八代

葛原 下園

山神 大毛下 龜瀧 八京

仁井田大明神 割木村 祭礼十月 祭礼 二代 林七丁 穿

木下天神 割木村 社地 二代 林 亦 丁 横 八丁

地藏堂 田邊 一丁 亦 穿 堂 地 二代 一 林 七

丁 四 丁 亦 穿 丁 持

下園村 本山郷 地六十五石五斗三升

阿弥陀院堂 土正 祭礼 月 十日 堂 地 二代 但古佛及

破損元文三年再興

十二所權現 祭礼 年中 堂 社 地 六 代 林 十 丁

小社 三ヶ所 境内

山神 大毛下 神林 八丁 横 十丁

上園村 本山郷 地八十九石

仁井田大明神 上園 祭礼 十月 十日 亦 穿 堂 地

社地 四代 林 亦 丁 穿 丁 持

上岡

八所高知官 古尾丸丸月方社地二所林八五七号

阿弥陀堂 堂体合曾十号堂体代末支寺支配

地主権現 又儿升 祭礼有八日社地一代林七号、四号

荒神 堂車

牛王権現 升内 祭礼有七号社地三代山号林十

山号、横十号

住吉大明神 境内 若宮 境内

鎮守明神 堂地内

下津野村

木山郷

地七十六石七斗五合

天湍天神 西字 祭礼九月十号社地七代林

十号里方別当末光寺

地主 境内

并財天地上

阿弥陀堂 西字 祭礼九月十号別当末光寺

堂体三代山号林七号、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百



原をふく福に別あよあてをけりけりたて  
 如何もやさる、車にまき、ま、海軍さんとして  
 兼つて海にけり、海軍にけり、甲兵をも  
 くとお初くと我軍にけり、甲兵の意向以  
 少はつとやん、とやれ、あ、の軍に、あ、あ、  
 中野はまにあり、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、  
 三、多、人、中、野、軍、に、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、  
 流、山、花、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、  
 好、き、き、き、き、き、き、き、き、き、き、き、き、き、き、  
 振、を、足、れ、に、一、振、り、ま、た、わ、れ、一、よ、い、き、き、き、き、  
 系、汗、足、の、お、た、あ、山、一、よ、い、中、野、軍、に、あ、あ、あ、あ、  
 孝、忠、此、川、系、の、も、の、も、の、も、の、も、の、も、の、も、の、も、の、  
 流、泡、洞、密、打、掛、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、  
 勢、よ、く、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、  
 殺、を、集、め、ま、る、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、  
 少、く、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、  
 子、遊、入、を、ま、る、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、  
 也、我、り、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、  
 打、け、ま、る、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、  
 物、を、殺、殺、り、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、

系、汗、足、の、お、た、あ、山、一、よ、い、中、野、軍、に、あ、あ、あ、あ、  
 孝、忠、此、川、系、の、も、の、も、の、も、の、も、の、も、の、も、の、も、の、  
 流、泡、洞、密、打、掛、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、  
 勢、よ、く、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、  
 殺、を、集、め、ま、る、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、  
 少、く、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、  
 子、遊、入、を、ま、る、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、  
 也、我、り、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、  
 打、け、ま、る、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、  
 物、を、殺、殺、り、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、





本能津村

本山郷

地九十八石

本能津

護王權現 松竹 糸九石月石等なる者也

社地四代林十八石

四福寺跡 松竹

近村年譜不詳

十一面觀音堂 長身 糸御子之也

堂休沙代林方石四方と係林也

寺者あり 糸御子之也

地藏堂 口 堂沙上四石

別當 糸九石月石社地三代林十石

了

地主權現 本能津 糸九石月石社地三代林十石

石神

山神 石開

天野大明神 了 糸九石月石社地

林十石 了



伊野 庄佳村

井ノ庄

本山郷 地三十四石八斗一升七合

地藏堂

カウセカトウ

カウセカトウ

堂屋代屋敷地十石三斗七升八合  
子海屋敷村仕成

高津野村

本山郷

地三十三石四斗八升二合

藏藏大明神

タキウラ

社地代

岩宮 寺社

耶藤村

本山郷 地八十八石九斗七升一合

凱平堂

寺社

寺社

高津野 即藤

山神

梅ノ下ノルヤ系

三体所見

山崎 多礼年中女社地内林ノ下

清水子ノ多東ノ人

三上権現

林ノ下ノ多東ノ人社地内林ノ下

核ノ下

八幡

ハカシロノ多東ノ人

津家村

本山郷

地辛丑石四并七合

仁井田大明神

多東ノ人

多礼年中女社地内

正観音堂

多東ノ人

村堂康茂林内ノ多東ノ人

大正カマ 大正カマ

山神

ホウキヨフ 才神

杉村

本山郷 地三十九石三斗九升七合

牛頭天皇

核ノ下

多礼年中女社地内豊ノ下



小川 馬瀬

馬瀬村 豊永 地五十八石六斗四升七合

山神 極谷神様志多 古宮南村以神

三休所見 小川村 祭礼六月廿五日 祭由

社地六代林 今 極谷志保子九宮年日新

楠木村 今 勘徳之

仙野権現 境内

山神 大牛 戸倉村 社之古林 昔より 古く 神様斗り

観音堂 今九月廿七日 祭由 志保子九宮年日新

角茂谷村 豊永郷 地四十七石六斗二合

三休所見 社地六代林 志保子 極谷

お高の末の末

三所権現 境内

今熊権現 境内

地藏堂 乙亥 今九月廿五日 祭由 極谷

白山権現 境内

柔し神 境内

田茂谷 榎木

昆沙門堂 南川上今九月方堂地代林亨等  
新子子 不祀

榎木村 豊永郷 地五十九石五斗九升

薬師堂 堂中 今昔古寺堂地代林七石九斗

三休所見 古寺 今昔古寺堂地代林七

十子四子 今昔古寺堂地代林七

今熊 境内 善喜 境内 悉多大子 林牛

老松権現 今昔古寺

中村大王村 豊永郷 地七十六石四斗八升七合

境神権現 今昔古寺 今昔古寺堂地代林七

六子一子

十二社権現 社地古代林七斗四升

山神

荒神

勢至堂

板橋

今より多し古より多し古より多し古より多し

日尻権現

ハナカ

阿弥陀堂

常陸代

菴谷村

豊永郷

地百七十八石六斗四升

三天神見宮

京

弘化元年申の酉に社地二代林

十古より多し

惠美須

社地三代高林ハヨヨ

地藏

社地二代

仁井田大明神

社

社地三代高林ハヨヨ

林ハヨヨ

土面觀音堂

上下木

今より多し八代

三古より多し古より多し

三天神見

三ツノ

林十古より多し古より多し

古城

社三板

元親阿州出城

金砂

古より多し古より多し

洪永後徳永年古より多し古より多し

今より多し金山の志を薩州より呼ぶ見世

今より多し

西川

西川村 豊永郷 地五十七石五斗四升

阿弥陀堂 カラ石 今昔寺堂成代也

約高定福寺

同 カワナ 以寺法水良及取捨佛新定福寺

之上方子住七宮年 定福寺佛作法改取

之上方子住七宮年 定福寺佛作法改取

之上方子住七宮年 定福寺佛作法改取

之上方子住七宮年 定福寺佛作法改取

之上方子住七宮年 定福寺佛作法改取

聖御前 カニ石 社地一代小宮村千七百一十石

荒神

聖御前 川子 社地一代林十町四方高島寺

社人島村母屋

黒石村 豊永郷 地六十六石五斗三合

仁井田大明神 仁井田 社地一代三宮村三町四寸

黒石舟戸

龍王 北王

山神 丑ラ

丸乙權現

勢至觀音堂 伊ケトウ 今更九月廿三日當座三代

船戸村 豊永郷 地二十九石七斗

十二所權現 十二子 今更九月廿三日權為尚座三子

仁井田大明神 十二子 今更九月廿三日社地三代

林廿一丁、拾二丁

中屋村 豊永郷 地二十九石五斗七合

三体妙見 客人權現 今更九月廿三日社地五代林廿三丁

但馬石村中屋村 寺村、山神

棟札 天文十九年十二月廿二日再興大明神

小笠原益貞

觀音堂 西ノ宮 今更九月廿三日當座三代

甲九



下土居村

豊永郷

中屋 下土居

地九十二石八斗九升三合

筑紫若宮

小宗 別為定福寺社之西村丹住

古城

小笠原備中守豊永居之

福徳小宗 越後守尚馬守 氏を以て  
氏を改

氏を以て

杉尾大明神

宗礼九月去り撰別尚馬守

寺社之村社地代村平年并子

地藏堂

今有 石井守 堂代 氏 尚馬守

貝留須大明神

中原村 社地代村平年并子

権現

中御堂

今有 寺 社地代村平年并子

天神

立石村

栗生村

豊永郷

地九十二石九斗

栗生山觀喜院定福寺

栗生

真言宗

本尊

寺領四斗七并三合

鐸口銘

土佐國長岡郡栗生村定福寺

敬白明德二年辛未三月二日大興主源賴惠

八幡

此社寺字、記号

熊野権現

此社寺字、記号

此社大明神

此社寺字、記号

三台妙見

此社寺字、記号

此社寺字、記号

三休妙見堂此社寺字、記号 此社寺字、記号

三台妙見

此社寺字、記号

此社寺字、記号

林十子、記号

觀音堂

此社寺字、記号

此社寺字、記号

釈迦觀音堂

此社寺字、記号

立野村

豊永郷

地十八石二斗七并七合

聖御前

三ツノ口

此社寺字、記号

地藏堂

日

此社寺字、記号

八ヤウケ町村

豊永郷

主野八町

地五十五斗一升

十一面觀音堂

射場

堂林三代林末五斗一升

大山年中換地之旨定額材と云堂寺有之

由中後正折云

鎮守 後内

大山神

延不

山神

仁丹  
中尾

南大王村

豊永郷

地二十三石二斗五升

蛇大王

享九月方不南定福方社地三代林

十八町

棟札

永祿八丑年 不見上棟 不見社 不見

鎮守

堂双

山神

クルミ

地藏堂

堂双 堂林三代

銅山

比治山 高年 松山 五斗一升

五斗

南大王 怒田

地藏堂 川俣 分守井守堂林七六号

生古川後氏先祖西村掃部從主於為氏神

地花節諸氏の大板ノ枝也地花節ノ人馬以中

生古川以枝也其友ノ其多種ノ上地花節

地花節 古木ノ成也

怒田村 墨取郷 地八十三石二斗五升三合

辨天神 多礼北日寺南定福寺 社地ハ

代林 亦寺ノ一ノ也

棟札 天正六年戊寅正月晦日辨天神造立

且那共兵衛 社地代林亦一ノ也

阿梨宮 亦寺ノ一ノ也 社地代林亦一ノ也

十六号

司 亦寺ノ一ノ也 社地代林亦一ノ也

先年秋枝古ノ一社也之右之四一社也子一節

山神 寺ノ一ノ也 社地代林亦一ノ也

土面觀音堂 堂取 寺ノ一ノ也

地藏堂 寺ノ一ノ也

大平

大平村 豊永郷 地五十二石

薬師堂 十の月一日 堂地 女代林 三丁丁

牛頭天王 卯九月 夫の南堂 福寺 社ノ

字 及 和泉社 地 代林 十九丁、拾八丁

棟札 天文四年 乙未 三月三日 上棟 造立

牛頭天王社 檀那 涼朝臣 資貞

聖宮 七丁

山神 宮ノ内

大瀧村 豊永郷 地三十六石 八斗三合

大本大明神 八吉林 卯九月 夫の社 地 八代林

十丁丁、十丁丁

荒神 林中 昆尻 撞現 御子 佐古 日

鎮守 堂ノ古

地藏堂 日 守 曾 亦 守 堂 地 子 代 山 守

姥神 毛リノ 取

山神 一丁丁

五十四

八川村

豊永郷

地六十二石四斗七升七合

大籠

八川

地藏堂

祭日 年宵 正月廿五日

三宝御前

祭日 祭日 九月廿五日 撰社地代

三本林 亦三 亦八

棟礼 天文八支年 三春吉辰日 上棟 三本

御前造立本願海壽坊

川井村

豊永郷

地四十一石九斗八升四合

千手観音堂

祭日 九月十日 堂代

林 亦三 亦八

若宮山上 祭日 祭日 九月廿五日 撰社地代

了 撰地代

中内村

豊永郷

地三十四石七斗七合

正觀音堂

壬子 金九月十六日 堂床一代

吉切部 壬子

壬子 卯礼九月三日 此地元吉林  
九丁一丁字 卯南 定福寺

白山権現 境内

柚木村 豊永郷 地三十一石九斗八升一合

有宮 卯礼九月三日 卯南 定福寺 社地二代 林

鎮守 境内

地藏堂

壬子 金九月十六日 堂床一代 天字十石

西峯村 豊永郷 地九十一石七斗七合

若宮三所 卯礼九月三日 卯南 定福寺 堂床十

阿弥陀堂 壬子 金九月三日 卯南 定福寺 堂床二所

三宅御崎

社代三

十二所權現

石是木

多礼九月七日社代夜林

十子ノ古

阿弥陀堂

字北日寺別当定福寺堂代夜

棟札 天正十三年乙酉二月廿八日建立阿弥陀

堂但地佛堂且那中屋右衛門次郎

薬師堂

草野寺

字七月寺別当知日

石本三所

社代夜

野ノ宮

聖山宮

三体妙見

ハキキリ 社代三

棟札 永正七年 不見 三谷半兵衛尉平盛次

阿梨宮三所及本 多礼九月九日社代夜

才郎神

夕キ山

白山權現

天王三所

社代三

地藏堂 堂代

棟札 文禄五年丙申七月十二日造立善福

寺途師佛堂大且那治大夫且那二郎

兵衛



永瀬大明神

永瀬 多礼 九月 七日 社地 三代

棟札 永祿十二巳巳三月十六日棟上造立

金輪即玉皇神主是太夫

聖王神

九月 七日 社地 三代 永瀬 林 十代

聖山神

社地 三代 永瀬 林 十代

鎮守

土坑

薬師堂

社地 三代 永瀬 林 十代

阿弥陀堂

社地 三代 永瀬 林 十代

一户谷神

社地 三代 永瀬 林 十代

王面子

土坑

権現

市上り谷 寛文七年再建

関

社地 三代 永瀬 林 十代

多

社地 三代 永瀬 林 十代

岩原村

豊永郷

地六十七斗四升三合

阿弥陀堂 堂敷 堂床 代

三空御前 大書 多礼 年中 社地 三代 永瀬 林 十代

西宮 卯吉 寺者古之社地也  
林八号、横七号  
同此寺中、信原公就、高宗天皇  
御代、下村宗光、祖  
院中、主名を以、石一、  
新田大明神 二ノ下ウ  
寺者古之社地也、  
林八号、横七号、  
関 長子、石十、  
寺者古之社地也、

茂木村 豊永郷 地十九石八斗四升  
寺者古之社地也、  
寺者古之社地也、

八面大明神 カキノ十日 寺者古之社地也、

寺社休去代寺安林十七石八斗

荒神 堀内

地藏堂 寺者古之社地也、

大久保村 豊永郷 地十五石三斗八升三合

薬師堂 寺者古之社地也、

寺者古之社地也、

大分得 大砂子

三所大明神

多九月十日 社地之代林也

三十一号

棟札 永禄元年城十二月十日 上棟再興

三所大明神社 且那 泉次 神主 忠通

大関

五人 小務系之石部斗弁

常在原左門

大砂子村

豊永郷

地百五石八斗六升三合

新田大明神

和名 多礼九月十六日 社地八代林

之形有七十号 刻有定福

棟札

應永壬午十月十五日 不見

身

弘治二年丙辰九月廿一日 上棟新田大明神社

神主 勘左門

荒神

若宮

けんこ

以上後四

藥師堂 和名 今有七り 刻有古日堂 永代

関

信子系 永代

五人

上名 寺人 寺住持 寺主 寺司

寺住持 寺司

柳野村 豊永郷 地二十二石四升三合

柳野 長淵

馬足大明神 系世 礼礼礼礼礼礼礼礼礼礼礼礼礼礼礼礼

礼礼礼礼礼礼礼礼礼礼礼礼礼礼礼礼

長淵村 豊永郷 地百廿四石七升七合

地藏堂 礼礼礼礼礼礼礼礼礼礼礼礼礼礼礼礼

鎮守 境内 山神 境内

三室御前 礼礼礼礼礼礼礼礼礼礼礼礼礼礼礼礼

礼礼礼礼礼礼礼礼礼礼礼礼礼礼礼礼

三棟礼大永二壬午十月廿六日上棟一宇

鳥羽村中穂氏子繁昌 裏書 南無本覺

礼礼礼礼礼礼礼礼礼礼礼礼礼礼礼礼

元龜三丙申年十月十日不見

天正三亥年八月十一日上棟造立三室大明神

法印祐鏡本願道貫神主櫻氏以宗

大龍王境内 大宮瀧 境内 壬午王宮 境内

桃源村 豊永郷

桃源

地九石一斗八升三合

十二所権現 大門 弘治九年三月廿三日 社地三代

棟札 慶長十一年二月十三日 造立十二所権現

一宇 本願高吉 着大夫

三体妙見

棟札 天文七年戊申三月十四日 再興三体妙

現 現主 福島朝臣太郎三郎

荒神 垣内

社地十宗一代三件  
古代五社的均

觀音堂

社地 九月十日 高吉 南定 福吉

社地 七石五斗一十八升

石宮明神

社地 代林 石宮

姥神

カニヤ

鎮守

連大村

豊永郷

地三十八石五斗一升三合

五社聖大明神

社地 高吉

社地 九石一斗八升三合 代林

連火 西窪

於了八里高定福寺

棟札天正四年六月吉祥日上棟一字 不見

藥師堂 寺如 今寺有分堂依代高定福寺

西窪村 豐永郷 地四石九斗

聖權現 寺如 寺有分堂依代高定福寺

林也乃十八石

荒神 依代

正觀音堂 寺如 寺有分堂依代高定福寺

梶賀内村 豐永郷 地五十八石八斗三升七合

正八幡 寺如 寺有分堂依代高定福寺 社地

正代林 寺如 寺有分堂依代高定福寺

正体鏡之銘 土州豐永梶賀内村竹崎太郎七

藤原政弘 元禄十二年

棟札 新再興八幡宮 南服師大内山所圍架祐譽 社人 笹岡徳太夫

梶ヶ野

正八幡 三ツウラト 水少礼方多者分相南界あり社地

三氏林字方三ツウラ者分家分此之御法由

水神王 三ツウ

和霊大明神 三ツウ 水少九月十日社地古代林三

寸々古

正観音堂 堂敷多毎月十九日者休古代初尚於

日向寺多古堂永七合年加新色京師古仙作

福田院年

八面山神 三ツウ

八面荒神 梶ヶ野

川戸村 豊永郷 地四十四石一斗八升

岸佐八幡 中敷 多礼九月十日者水田定福寺

社地十古代林 水少三ツウ

喜留部王子 梶ヶ野

地藏堂 中敷 水少九月十日

安野村 豊永郷 地十五石三斗八升三合

本願大明神

川戸安野ノ 寺内

口ノ、  
少礼九月廿七日  
社地五坪  
少子

寺内村豊永郷地百廿五石五斗七合

水神

三ノ子  
少礼九月廿七日  
其園ノ云ノ少子  
少子

山神

名ヲフ

古城

豊永氏代々領之

遺詔曰豊永氏世々領長岡郡豊永山

小笠原備中守源豊永之裔也備中守

位牌在大田寺 又曰豊永藤兵衛泰生

喪時病卒于豊永 柩植村生子二藤五

郎藤次兵衛藤五郎仕盛親天尾之敗

藤五郎及十池方太郎長宗我部主水為

後殿後仕肥後國未詳其後藤次兵衛

初仕肥後國後仕堀田加賀守生子式部

大田山大願院豊樂寺真言宗

本尊藥師觀音行基作

寺領十石



寺内  
小笠原備中守豊永牌

藥師堂

山下権現

三所権現

若宮大明神

大西大明神  
地主権現 相殿

日鐘勸進帳

上泉山神林 神由幣云

正八幡

藏王権現

稻荷大明神

以持月首

中村表示守権現色(平)

大之井田子(月)白

小笠原道<sup>花子</sup>之邊

小笠原<sup>花子</sup>之邊

表永<sup>花子</sup>之邊

表永美濃守<sup>花子</sup>之邊

表永大<sup>花子</sup>之邊

小笠原<sup>花子</sup>之邊

表永<sup>花子</sup>之邊

表永<sup>花子</sup>之邊

表永<sup>花子</sup>之邊

表永<sup>花子</sup>之邊

寺好

江和成守  
日除七  
同甚佳  
其永推  
石山  
今和  
劫和  
日音

日新  
其永  
石山  
久松  
日音

日新

其永

王石  
日除  
劫和  
日音

其永  
日新  
其永  
石山  
久松  
日音

寺切

小坂九名

長岡 三山 大長 三八 大虎

立野 連水 如産 批系

十村六名

百得 大五

榎田

店名 黒天

古味

古味村

豊永郷

地九石九斗七升

古味村寺社ノ事之由山谷村氏神を宗系奉り

園國第六長岡郡之部都而四卷  
終于此卷

長岡郡百二十七村地高二万八千五百  
八十八石八斗九升二合内二万二千  
九百五十七石三斗八升六合田五十二  
百三十一石五斗六合畠外三千六十  
四石三斗八升九合新田

南路志卷十二終

六十七終

白鹿寺

白鹿寺  
卷十四  
南  
路  
志  
卷  
十  
四  
目  
録  
一  
宮  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十

南路志卷十四

閩國七之一目錄

○土左郡

布師田村 下省村字

一 一宮 三

久礼野

十七 薊野

十七

夫能泉寺

三十九 久万

五十二

方

五十六 福井

五十七

園行寺

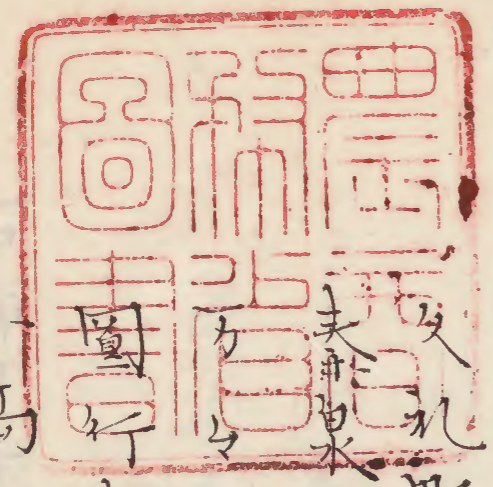
六十 江ノ口

六十三

小高坂

六十六

南路志閩國第七之一目錄終



南越志圖阿...



○土...

阿...

南路志卷十四

闔國第七之一

何龍撰

土佐郡

順和名抄土佐

神社佛閣諸堂名跡古城古人是

證歌證文志載于此

地高一万九千九十石八斗三升四合村數

百二寬永十九年改

市師田村

地千三百九十一石三斗四升四合

跟大津北限蒲原東四十四丁余南北二十丁全驛路自石淵至中嶋三十一丁山八布師田山東西三十一丁南北五丁高

四下余○川三南川田開細流也入池水布師田川合流律井川  
云布師田川出南木山國分川合岩瀨川。橋一在七代長  
三十三間福三間架川東西古在山西六本松明曆年中架東西  
端方洛三年架今處。閘一在折越

葛木男神社山ヲ田式社之一也

別當西山寺社人甚久矣社地十六代田地及

共此代之安穴林高并間余長百間余

式社考谷童遠著云布師田有高結社蓋此數二代

實錄貞觀十八年有近江國天高結神蓋同

神也度會氏曰姓氏錄云葛木直高魂余五世

孫敏根余之後也蓋高結即高魂也鎮魂祭

伯結木綿取此義魂字訓年領比三代實錄所

謂結御魂結是也當社至今不失此神名昭合

姓氏錄豈不信哉

葛木咩神社カツラキ式社之一也

社地三拾四代田地十代本田直物地下立磐石

女族ヤ多積ナ部子

式社考云高結社南田中有葛木社蓋此也

如據上說則此社其高魂余之地乎

普門山西山寺觀明院五臺山

宗旨真言本尊別安置土左州志云古在

七代慶安中移今之地

正觀音堂 境内

地藏堂 枳木谷 堂床二代

野津高 山 社地三代

荒神 山

若宮 社地三代

古城 石谷民部六輔 社地三代

為之親為其後久武門院出孫

宗朴女子二人 七女石河別親妻其子在河多屋

宗朴女子一人 二女宮田其妻其子在宮田

西蓮寺跡 在西山

岡坊跡 在石谷山上

一石度 石割 社地四步

一石度 七ツ代 社地三代

一石度 津島河 社地三代

神女 三十箇所

池の原 西谷 池 七ツ城 石割 石谷

伊豆 川原 柳ヶ原 石割 西窪 橋

島中 地飛登 下村 石割 中芝 石割 下尾

觀音堂 石割

住吉大明神 石割



叢瀨大權現

石洲

地藏堂

下傳

壹本

計代

地藏堂

北花

壹本

計代

一言村

地九百一石七斗一升七分

去城東一里計東限長岡郡瀧木峯休場大石谷藤之

原大坂南限市師田石洲山峯西面南限椿塩田之堤北限

藪野赤坂山上面南限田取有海氷東限久礼野山上西限土

古山之重倉巖二十下余横二十下土色黒口山十東山在村東

巖五下許高二十下許大谷山在村北巖十二下許高七下余久

山在澆唐村北山中存谷名駿河知五前之谷甲敷仁山兩山在

村西北別當山在前岡巖榎四下許勘定山在前岡赤坂間

鳥附山在前岡南如繫招在鍋島西相傳古大明神繫船所

入江尻川一出西谷小川南流入之糸川鳥附川出久安南

高加賀茂大明神

木村

式社之一也

別當善寺坊

神宮寺

。社人執行之文傳延。神宮寺之老元原

。一和為谷三系右傳

。和和七斗三斗此余在り多し

。社地境内七五文許定林寺字一宮横沙十

六了文許切地三代其之本一宮定村切田直持

地(下)之勢從大明神名是極地(下)之地り

高加賀此名若大如神(下)之地り

。池長沙多程(下)之地り

余年壯境內分之子乃斗成其方四申子  
其此此者乃其神之所流之清地中  
之而元此此者其以

切社

永保十年分元其也其年也其就其字其其元

親公建之通也其其日其親其天其博其有春

其親其也其有也

○其其其其也 ○天井陽就 其也其春其

○西之其其 ○其其 ○其其

○其其 ○其其 ○其其 ○其其 ○其其

○其其 ○其其 ○其其 ○其其 ○其其

其其

○其其 ○其其 ○其其 ○其其 ○其其

○其其 ○其其 ○其其 ○其其 ○其其

○其其 ○其其 ○其其 ○其其 ○其其

○其其 ○其其 ○其其 ○其其 ○其其

○其其 ○其其 ○其其 ○其其 ○其其

南にありし 仙居の身祐 南にありし 仙居の身祐  
年一あり 院の身祐 年一あり 院の身祐  
あちれれき 仙居の身祐 年一あり 院の身祐  
海人の 仙居の身祐 年一あり 院の身祐  
院の身祐 仙居の身祐 年一あり 院の身祐  
仙居の身祐 仙居の身祐 年一あり 院の身祐  
仙居の身祐 仙居の身祐 年一あり 院の身祐

七ノ

由食村七院 年一あり 院の身祐  
十の南海あり

仙上

仙居の身祐

木子孫二子七子七子

本年の正盛義様より法社一を記す

年一あり 院の身祐 年一あり 院の身祐

年一あり 院の身祐 年一あり 院の身祐

一也社家年

仙上

記

式社考之 都佐坐神社 此當国一宮所謂  
高賀茂大明神也 八頭花鏡為神體 土  
左風土記曰 土佐郡有土左高賀茂大社  
其神名為一言主尊 遠按舊事記一説

曰大穴六道尊子味鋤高彥根尊統日本  
紀曰高野天皇天平宝字八年法臣圓興  
其弟中衛將監從五位下賀茂朝臣曰  
守等言昔大泊瀨天皇獵干葛木山時  
有老丈每與天皇相逐爭獲天皇怒之流  
其人於土佐國先祖所坐之神化成老丈爰  
被放逐此高鴨神也重遠詔風土記錄  
當社本縁極詳且發明道要尤爲教言也  
本國當時有以可知美以文多不能具載  
○永祿六年吉良式部少輔爲奉成義人として  
中務卿助言石を森久六の次長成之助  
より久礼中務卿一室へ向ふ一事は是後  
よる意門流久六向、業所久助と大物と  
向ふ事、今月大物彦成放生行へしと  
事出詞を定免途の心持を清海寺へ地字  
比を有月より此おあり、月を有月より  
その時刻よりぬき、沙る余人久礼中務の  
情をより一室の左近子成掛りぬ、魔  
凡登よ成我國あ梅ぬく境あり余燈四  
方尔爲少事ぬの事あり、事あり

高<sup>七</sup>八八和移女社 七<sup>七</sup>八<sup>七</sup>子 天神社  
 毫皮 惠良社 布才天 津<sup>五</sup>子 水<sup>五</sup>子  
 山<sup>五</sup>社 志<sup>五</sup>堂 護摩堂 隆<sup>五</sup>樓  
 堂<sup>三</sup>味<sup>五</sup>花 隆<sup>五</sup>花 室<sup>五</sup>苑 之<sup>五</sup>目<sup>五</sup>包  
 天上<sup>五</sup>危 隆<sup>五</sup>危 隆<sup>五</sup>花 井<sup>五</sup>包 本<sup>五</sup>如<sup>五</sup>原<sup>五</sup>門  
 一<sup>五</sup>多<sup>五</sup>居 二<sup>五</sup>多<sup>五</sup>居 三<sup>五</sup>多<sup>五</sup>居 之<sup>五</sup>多<sup>五</sup>居 後 社<sup>五</sup>傳  
 社人神之主在不在 為一時之 出<sup>五</sup>於<sup>五</sup>在<sup>五</sup>城<sup>五</sup>中<sup>五</sup>  
 古<sup>五</sup>道<sup>五</sup>子 人<sup>五</sup>明<sup>五</sup>神<sup>五</sup>之<sup>五</sup>如<sup>五</sup>社<sup>五</sup>斗<sup>五</sup>之<sup>五</sup>危<sup>五</sup>長<sup>五</sup>子<sup>五</sup>如<sup>五</sup>也<sup>五</sup>  
 乃<sup>五</sup>也<sup>五</sup>子  
 〇 延保六年 八<sup>五</sup>月<sup>五</sup>八<sup>五</sup>日 軍士 一<sup>五</sup>多<sup>五</sup>居 社 氏 危<sup>五</sup>成<sup>五</sup>樓<sup>五</sup>拂

余<sup>五</sup>雖<sup>五</sup>尚<sup>五</sup>社<sup>五</sup>の<sup>五</sup>境<sup>五</sup>内<sup>五</sup>と<sup>五</sup>又<sup>五</sup>し<sup>五</sup>如<sup>五</sup>移<sup>五</sup>回<sup>五</sup>祿<sup>五</sup>世<sup>五</sup>と<sup>五</sup>大<sup>五</sup>  
 之<sup>五</sup>款<sup>五</sup>深<sup>五</sup>く<sup>五</sup>惠<sup>五</sup>ひ<sup>五</sup>の<sup>五</sup>心<sup>五</sup>志<sup>五</sup>地<sup>五</sup> 造<sup>五</sup>山<sup>五</sup>果<sup>五</sup>運<sup>五</sup>益<sup>五</sup>と<sup>五</sup>  
 一<sup>五</sup>志<sup>五</sup>と<sup>五</sup>く<sup>五</sup>如<sup>五</sup>も<sup>五</sup> 系<sup>五</sup>如<sup>五</sup>り<sup>五</sup> 大<sup>五</sup>助<sup>五</sup>と<sup>五</sup>く<sup>五</sup> 徳<sup>五</sup>水<sup>五</sup>不<sup>五</sup>  
 き<sup>五</sup>大<sup>五</sup>工<sup>五</sup>英<sup>五</sup>桂<sup>五</sup>波<sup>五</sup>師<sup>五</sup>林<sup>五</sup>呼<sup>五</sup>り<sup>五</sup>志<sup>五</sup>永<sup>五</sup>祿<sup>五</sup>十<sup>五</sup>年<sup>五</sup>了<sup>五</sup>  
 卯<sup>五</sup>十<sup>五</sup>月<sup>五</sup>十<sup>五</sup>日<sup>五</sup> 新<sup>五</sup>初<sup>五</sup>を<sup>五</sup>く<sup>五</sup> 元<sup>五</sup>龜<sup>五</sup>元<sup>五</sup>年<sup>五</sup>庚<sup>五</sup>午<sup>五</sup>  
 九月<sup>五</sup>十<sup>五</sup>日<sup>五</sup> 井<sup>五</sup>上<sup>五</sup>の<sup>五</sup> 甲<sup>五</sup>申<sup>五</sup> 本<sup>五</sup>社<sup>五</sup> 之<sup>五</sup>主<sup>五</sup>堂<sup>五</sup>  
 護<sup>五</sup>摩<sup>五</sup>堂<sup>五</sup> 隆<sup>五</sup>樓<sup>五</sup>堂<sup>五</sup> 之<sup>五</sup>味<sup>五</sup>堂<sup>五</sup> 護<sup>五</sup>摩<sup>五</sup>堂<sup>五</sup> 隆<sup>五</sup>樓<sup>五</sup>堂<sup>五</sup>  
 隆<sup>五</sup>樓<sup>五</sup>堂<sup>五</sup> 室<sup>五</sup>苑<sup>五</sup> 之<sup>五</sup>目<sup>五</sup>包<sup>五</sup> 天上<sup>五</sup>危<sup>五</sup> 之<sup>五</sup>隆<sup>五</sup>危<sup>五</sup>  
 隆<sup>五</sup>花<sup>五</sup> 井<sup>五</sup>包<sup>五</sup> 本<sup>五</sup>如<sup>五</sup>原<sup>五</sup>門<sup>五</sup> 一<sup>五</sup>多<sup>五</sup>居<sup>五</sup> 二<sup>五</sup>多<sup>五</sup>居<sup>五</sup>  
 三<sup>五</sup>多<sup>五</sup>居<sup>五</sup> 之<sup>五</sup>多<sup>五</sup>居<sup>五</sup> 塔<sup>五</sup> 神<sup>五</sup>宮<sup>五</sup>寺<sup>五</sup> 本<sup>五</sup>初<sup>五</sup>寺<sup>五</sup> 一<sup>五</sup>如<sup>五</sup>為<sup>五</sup>





古の事も多し新種も借書しり少く新種河代  
河代も是も又四つも入る傍に宛てた書  
の抄を調ゆれせしり心の中此は越前  
よあも少く再後海にありて心もほせ  
え新洲合美國をてあつた少くし海  
自傳の事多しは月朔旬法集雅の歌志  
流の流管城ありて一永く定例に  
ありて空理も是も法成極むし是  
甲ありれりは中後新種多しり  
住知の候より古法も人切りて  
町にありては

此は是も新種河代も是も是も  
也三年十月六日より日正迄  
の書信方單九人 中野一人 寺岡一人 江村一人  
二人 久野一人 上村一人 中野一人 横倉一人  
寺人十市一人 下田一人 寺岡一人 寺岡一人  
一寺執事一人 寺岡一人 寺岡一人 寺岡一人  
寺人久武一人 寺岡一人 寺岡一人 寺岡一人  
寺人寺岡一人 寺岡一人 寺岡一人 寺岡一人  
寺岡一人 寺岡一人 寺岡一人 寺岡一人  
寺岡一人 寺岡一人 寺岡一人 寺岡一人  
寺岡一人 寺岡一人 寺岡一人 寺岡一人  
寺岡一人 寺岡一人 寺岡一人 寺岡一人





。子孫傳の中世田主馬を夫永世長を夫妻人馬  
山崎梅一も流る。河内中野地臨云。若元親を忠厚  
の心ありき。子孫傳にあり。子孫傳群集の中に  
他子も。子孫傳にあり。人忠救十人元親を此供  
先き。山崎梅一も流る。河内中野地臨云。若元親を忠厚  
あり。元親を此供。人忠救十人元親を此供  
山崎梅一も流る。河内中野地臨云。若元親を忠厚  
の心ありき。子孫傳にあり。子孫傳群集の中に  
他子も。子孫傳にあり。人忠救十人元親を此供  
先き。山崎梅一も流る。河内中野地臨云。若元親を忠厚  
あり。元親を此供。人忠救十人元親を此供

百々山善樂寺觀音院

古長福寺  
真言宗五智山末

山崎梅一も流る。河内中野地臨云。若元親を忠厚

の心ありき。子孫傳にあり。子孫傳群集の中に

力来

百々山神宮寺無量院

真言宗五智山末

山崎梅一も流る。河内中野地臨云。若元親を忠厚

の心ありき。子孫傳にあり。子孫傳群集の中に



古墳 名未詳 毎子崇カ崇を成る所定迄之建出之

春宮 トウヤシ 社地未詳

野津子 是山

妙見大明神 林抜間横之権間

辨才天 西谷

祇園

阿弥陀堂 西河内

白巖寺跡 大谷山中存里人波系加

頭光寺跡 社之東子存

蓮臺坊跡 社之西子存

圓藏坊跡 社之西子存

光巖寺跡 社之西子存

曲葉寺跡 社之西子存

西谷寺跡 大谷山中西谷子存

百願寺跡 社之西子存

勝藏坊跡 古東村子存

西蓮寺跡 湯子存

有傳寺跡 宋村子存

光蓮寺跡 社之東子存

妙見堂跡 社之東子存

礫石 大石の筋中様あり

大岩 里人の世に於ての取捨物と云ふ

宝蓮塔 南元延享元年建立

御茶屋跡 多分計りあり

先主少田屋敷跡 十景 先主の山系屋敷跡

知恩寺代り様 江戸の上下より掛り候はる

後之寺 内見の建てあるあり 寺あり 其寺あり

寺あり 寺あり 寺あり 寺あり 寺あり 寺あり

寺あり 寺あり 寺あり 寺あり 寺あり 寺あり

寺あり 寺あり 寺あり 寺あり 寺あり 寺あり

寺あり 寺あり 寺あり 寺あり 寺あり 寺あり

寺あり 寺あり 寺あり 寺あり 寺あり 寺あり

寺あり 寺あり 寺あり 寺あり 寺あり 寺あり

寺あり 寺あり 寺あり 寺あり 寺あり 寺あり

寺あり 寺あり 寺あり 寺あり 寺あり 寺あり

寺あり 寺あり 寺あり 寺あり 寺あり 寺あり

寺あり 寺あり 寺あり 寺あり 寺あり 寺あり

寺あり 寺あり 寺あり 寺あり 寺あり 寺あり

寺あり 寺あり 寺あり 寺あり 寺あり 寺あり

寺あり 寺あり 寺あり 寺あり 寺あり 寺あり

寺あり 寺あり 寺あり 寺あり 寺あり 寺あり

寺あり 寺あり 寺あり 寺あり 寺あり 寺あり

寺あり 寺あり 寺あり 寺あり 寺あり 寺あり

為廣心相紅紙御守生以後掛物御立  
以代後心入之度毎々掛物と云々  
此等御守の事ハ凡故の事今も以テ奉持し奉  
乃チ掛物迄奉持圍し三ツ為之ハ云々奉持  
也

源平御守記之類ハ清和源賴朝又是上今不  
清少源之丹後國新在在在在在在在在在在  
其傍解子國多水之法子言加云云云云  
十二ノ不云云云物と云云形と加云云云云

久礼野村 一宮之内 地百七十三石六斗七合

東限長岡郡大石山顛西限土左山三谷村一石南限一宮村峯  
北土左山椏谷村東西二十五丁余南北一里余其上黒山一  
輪椏谷村西北山顛曰輪椏谷堂奈路山〇川ニ久礼  
野川谷水也自長岡郡椏谷西流入三谷重倉川入定谷川谷  
水也南流入重倉川二川鏡川之水源也

若一王子 入乃社地十代林廿五間横五十一間

神母二所 入乃谷林沙る四〇 幼芝林沙る横一〇

地主官谷 社地十代林二十間横九間

聖觀音堂 的坊堂本社代林六間横四間

天神 六ヶ丁十ヶ林二十間横三ヶ丁

山神 川原堂 社地十代

阿弥院堂釋  
一言庄上礼野禪  
宗寺大二撰州瓦森  
末文安元甲子八月

阿弥院堂 系方古堂來五代林松間撰九百

州志云阿弥院堂古有圓滿坊其趾杜

古城

古村山古為城之知

刺野村一宮之内地三百四十七石七十四坪

東限三宮井西限鉄鉋築地番屋之町青芝越南限陽貴  
山北限土左山境の山五東谷山高四下横八下許明見谷  
銭神谷清作谷高二下許横十二下大穴山高三十門横

牛頭天王 立石 武塔天神 波利才子

社地二十代宮林 功貴山史記

嘉永盛修寺 稻田堀 大己貴命城築り

寛永水一七年忠義公以建了三月八年六月

十三日以勅清寺田兼御了定命花 以授

大社社門の神友下勿延宮し中又掛り

天志山寺し石跡の例馬蹄あり 彼平人の云

一歩名し馬蹄こし以為教代し 三宗寺あり

州掛り子以勅法也

三重塔あり 安永四年六月八日以中し

陽貴山國清寺見龍院 天台宗 東巖山御門支配  
古銀石名新田保知三後元初三年終矣

忠義公以忠立

心志日損和為

二代快充和為

日損和為

忠義公以忠立

心志日損和為

二代快充和為

日損和為

忠義公以忠立

清書卷

近定八年庚甲

忠義公以忠立

心志日損和為

二代快充和為

日損和為

忠義公以忠立

心志日損和為

二代快充和為

日損和為

忠義公以忠立

心志日損和為

二代快充和為

日損和為

忠義公以忠立

忠義公以忠立

心志日損和為

二代快充和為

日損和為

忠義公以忠立

心志日損和為

二代快充和為

日損和為

忠義公以忠立

心志日損和為

二代快充和為

日損和為

忠義公以忠立

心志日損和為

二代快充和為

日損和為

忠義公以忠立

心志日損和為

二代快充和為

日損和為

忠義公以忠立

心志日損和為

二代快充和為

日損和為



乃平山公名全之字

贊

一天主宮以神作牛頭天子忠義操為四生  
 神實如七年以純清社在吉野州城川原  
 六廿月二日遷安宣命每以吉野為宣命水  
 十八年冬己六月二日神在吉野領中上上親筆里  
 一出由吉野以宣命領中上上親筆里  
 歸國法寺山歸乃平山忠義公之序師先師  
 快跡撰

一吉野村新田名

四條沙石余二宮  
子孫七不余宮

漸以寺科

承應四年境乃大御牛年以少以飛來抄推余  
 亦以付天和元年以法降及以建之御  
 豐昌公其守之在境御書度後上乃免七余  
 乃以乃以少御降乃以集以就其八余  
 御領此

一塔三寺 寺名親也 經于文殊菩薩

忠義公以建之寺安四年春以善清初日  
 寺名成就六月八日入佛

一寺名元祖親來院日櫻永嚴寺也  
 小野村也 延生院也 山家傳也 寺法眼院



快即于詣長事也 快即龍象院後住  
住處多事此處山寺多矣 東日撰先皇在  
中秘中事宣元八年移下志 亦月日撰 札  
軍如後住此傳身之果 亦不院此  
一快即事見龍院住持了法行台 忠義公  
法即一十日撰海峽院此了法感 亦在解  
法信忠義公亦在龍象院 亦在傳信 一死  
任信台 亦御制 亦在 亦四年 亦月日院住  
見龍院 亦院住 亦龍象院 亦在 亦在 亦在  
亦在 亦在 亦在 亦在 亦在 亦在 亦在 亦在

一忠義公以前亦龍象院住持 亦在 亦在 亦在  
龍象院 亦在 亦在 亦在 亦在 亦在 亦在 亦在  
比嶺山 亦在 亦在 亦在 亦在 亦在 亦在 亦在  
寬文十一年亦在 亦在 亦在 亦在 亦在 亦在 亦在  
亦在 亦在 亦在 亦在 亦在 亦在 亦在 亦在  
忠豐公日撰 亦在 亦在 亦在 亦在 亦在 亦在 亦在  
亦在 亦在 亦在 亦在 亦在 亦在 亦在 亦在  
寬文九年 亦在 亦在 亦在 亦在 亦在 亦在 亦在  
幕休 亦在 亦在 亦在 亦在 亦在 亦在 亦在  
見龍院 亦在 亦在 亦在 亦在 亦在 亦在 亦在

貞享四年十一月廿九日



あり快詠の舟あり静林寺に若此の山あり候る  
山寺院の山物高き中京には是を志す  
又山寺の山物高き中京には是を志す  
先形之早世に人ありて山物あり

龍按又結院院に當りけ撥り場を山の位  
織女寺後院院の山物高き中京には是を志す  
新林寺に傳法之山物あり

地藏堂 山物高き中京には是を志す  
龍言権現言 社地五代林八代

武内宿禰の靈を祀るといふ  
妙見大明神 妙見谷社地十代林十間横之之間

神母六ヶ所

神母木下尾末一七神 宮兼 西谷 東谷

常寂院 天台宗陽貴山末法性山石城寺

石城寺半鐘  
開山黙堂和尚

此寺寂院の寺地は昔宗我守を奉じて云人の山社  
あり鴨居尾垣越築立りて折振豊田之野  
多山物絶え盡し何者かといふ意ありけり我

寺より山物絶え盡し何者かといふ意ありけり我  
築立りて山物絶え盡し何者かといふ意ありけり我

觀音堂 真彦靈社

干時堂曆算七  
丁巳歲除生言詳  
日施之上野名部  
子佐木源正職  
治之菅原守敏  
謹白

古城 山本某居之

石地藏 雨乞

山神 如又谷

岩神 才々神

中尾山良泉寺福壽院 真言宗

毘沙門堂

銘井上金峨書東江

高陽山人墓

比鳴山靜林寺圓先院 天台宗陽貴山末

閑山狀音和尚 寺領拾石

不動堂 昔弘法大師堂并護摩堂之跡也 觀音堂 不動殿

臨湖菴

此菴乃由寺以唐室也字知之乃心者居  
けり故寺人字知唐と子谷と漸花と記詩又  
集載

題蘆嶋臨湖菴 仙臺遊士伴雲子

孤錫飄然萬里來南中勝景眼中閑 誰留

更醉風光色終日悅怡尚未回

正覺院跡 今乃於此也

比治村 西之院

了却山明定後堤先規斯正極形不才有執

遠近の不便を人々来り居坊に在り別小論  
出國を急し居居し其志に誰か権限を去る  
一山に其居居る法者也

山内と依り一豊島判  
山内経理亮 康豊島判  
其九年上居居

其申立斗先是經書判  
宣徳山内先院造先院上依り権限初る是遠  
他に不便を人々来り居坊に在り別小論出國  
去居上居り権限初る人一山に其居居る

其七年上居居

去依りし山内と依り権限初る人々方所方  
其民山内と依り先院権限初る人々方所方  
其民山内と依り先院権限初る人々方所方  
又其民山内と依り先院権限初る人々方所方  
其民山内と依り先院権限初る人々方所方

其民山内と依り先院権限初る人々方所方  
其民山内と依り先院権限初る人々方所方

先山内と依り先院権限初る人々方所方  
其民山内と依り先院権限初る人々方所方

遠光寺の寺務の物語

山内神理亮原豊判

元和四年正月廿七日

山内右衛門守一唯判

山内御左守一唯判

山内御左守一唯判

山内御左守一唯判

山内御左守一唯判

山内御左守一唯判

山内御左守一唯判

山内御左守一唯判

山内御左守一唯判

山内御左守一唯判

山内御左守一唯判

山内御左守一唯判

山内御左守一唯判

山内御左守一唯判

山内御左守一唯判

山内御左守一唯判

山内御左守一唯判

山内御左守一唯判

山内御左守一唯判

山内御左守一唯判

山内御左守一唯判

山内御左守一唯判

山内御左守一唯判

山内御左守一唯判

山内御左守一唯判

山内御左守一唯判

山内御左守一唯判

山内御左守一唯判

山内御左守一唯判

山内御左守一唯判

山内御左守一唯判

山内御左守一唯判





計古馬元	第百卷之四	坊甚多	益
土方中二八	深井九志信	百多	後志信
中至中志信	江田文四志信	志村	志信
松牧市志信	成村稔志信	津田四良志信	
助伊利志信	松浦次志信	之御所	志信
萱	平三郎	中系代志信	次
莊中久志信	志信	松浦源志信	次
井上忠三郎	車	志信	
中村勘七	後田九九志信	志信	可家
谷川七志信	安志信	志信	
海老	志信	志信	
孫川少志信	葉田志信	志信	
幸田源茂	中村源志信	志信	
毛利又志信	志信	志信	
仙石八志信	成	志信	
大塚百助	志信	志信	
西山兵部	志信	志信	
由比	志信	志信	
長流新忠助	志信	志信	
半田志信	志信	志信	

長橋志之書次 古橋志之書次 河村志之書次  
 海以又志之書次 海江志之書次 山田志之書次  
 津田志之書次 今村志之書次 小栗志之書次  
 是利之書次 毛利久八 落木志之書次  
 寺村志之書次 津田志之書次 津中志之書次  
 降系志之書次 小川志之書次 仙石志之書次  
 清水志之書次 橋本志之書次 仙石志之書次  
 的井志之書次 國為志之書次 友松志之書次  
 並井志之書次 山田志之書次 久遠志之書次  
 山崎志之書次 宮山志之書次 葉山志之書次  
 青山志之書次 宮山志之書次 武友志之書次  
 仙石志之書次 津島志之書次 川田志之書次  
 津井志之書次 足田志之書次 馬淵志之書次  
 小倉志之書次 石橋志之書次 橋本志之書次  
 日根志之書次 武友志之書次 三枝志之書次  
 青木志之書次 神島志之書次 坪原志之書次  
 山田志之書次 宮田志之書次 水田志之書次  
 宮田志之書次 武友志之書次 桑田志之書次  
 畑志之書次 佐藤志之書次 豊前志之書次  
 津田志之書次 飯沼志之書次 山崎志之書次

横巻	方子	室山	枝	春	次	後	足	在	信	路	次
松山	源	九	之	久	手	柳	次	在	信	門	
并	山	志	摩	字	憲	山	棠	源	信	之	乾
中	治	又	才	之	久	大	庭	金	之	久	久
西	内	九	月	上	田	四	郎	之	久	久	久
中	治	中	四	郎	松	田	之	久	久	久	久
多	尾	老	向	三	年	治	郎	美	梅	木	字
高	子	古	郎	上	方	在	中	郎	市	四	郎
高	親	子	在	信	次	山	田	在	信	門	
之	牧	在	信	門	柳	京	在	信	門	麻	田
多	尾	老	向	三	年	治	郎	美	梅	木	字
高	子	古	郎	上	方	在	中	郎	市	四	郎
高	親	子	在	信	次	山	田	在	信	門	
之	牧	在	信	門	柳	京	在	信	門	麻	田
多	尾	老	向	三	年	治	郎	美	梅	木	字
高	子	古	郎	上	方	在	中	郎	市	四	郎
高	親	子	在	信	次	山	田	在	信	門	
之	牧	在	信	門	柳	京	在	信	門	麻	田

吳波部權方又分次中右等處改後有十餘所也  
 津田右即其地教方津助為尾村下八助親也  
 多津平十郎重能 志村中次 永田左内軍  
 弟四條八 無村安太夫 市村氏九傳  
皆多田部即其地  
 志村九道左内 河木井井 本村長久傳  
皆多田部即其地  
 近友右左傳 淡田左内 久 清左傳  
 中村曹左傳高次 市地左助 吉田長久傳  
 後頭新助 柏原市之史 成山三右左内  
 止地也左傳 少東左内 布施才次  
 市京傳左内 言尺傳左史 藤地左内  
 少崎 津助 妻木久左内 村東左内  
 後頭言左傳 侍士次左傳 室崎左傳  
 三傳左内 少川 市傳 所 孫傳  
 淡利左傳 言左傳 安友 市傳  
 磯村左傳 左傳 左傳 福田左傳  
 伊左 其左傳 法久左傳 谷 權助  
皆多田部即其地  
 淡田左傳 藤田 葛左傳 田邊 又左傳  
皆多田部即其地  
 德江左傳 小代左傳 植左傳  
 太左保右左傳 井上左傳 助 百一 八傳  
 若田左傳 久左傳 成田 山崎 中助 惠家

芳子甚幼九思 山田節其美 入江耕菴  
石尾助信實 金子守内 子尾三郎甚幼  
中尾若中助 中尾八助 箕浦依久  
中尾若忠之 香屋若忠之 中尾村住九之  
中尾若忠之 中尾七郎文次 伊為九之  
子尾若忠之

掛川所

加藤若忠之 中尾若忠之 中尾若忠之 中尾若忠之  
西尾若忠之 中尾若忠之 中尾若忠之 中尾若忠之

從是規以取海部、石のありあは遠く也

元和三年 少日百

山受候株

七尾家就甚老 柳川内花助 中尾若忠之 中尾若忠之  
中尾若忠之 中尾若忠之 中尾若忠之 中尾若忠之  
中尾若忠之 中尾若忠之 中尾若忠之 中尾若忠之  
中尾若忠之 中尾若忠之 中尾若忠之 中尾若忠之  
中尾若忠之 中尾若忠之 中尾若忠之 中尾若忠之  
中尾若忠之 中尾若忠之 中尾若忠之 中尾若忠之



可如行方子我難說文在之代今  
進多說海大經年有月水以下  
海海有之者の中付名也

寛永三年

土佐傳信

忠義

十一月十日

高松山内院

白覚院

覚

一 覚永之達上自子者 忠義様此繪巻内  
抄多名來好記此也一字一抄 但此中我  
一 右日年此繪巻内并 幸包為事 以繪巻

此成り不此也し字之抄 但此中然 右日

一 元和三年四月十日 忠義様 土佐内閣  
物方白覚院繪巻此在傳以書不致并  
右之字一抄在深遠也

但右之四上白覚院と有之上包也

右之知所月身好又其成度由家所成  
原文之趣 色直法事好之の成り也

十二月四日

正覚院

津尾四郎左衛門守



少衣書之通遂お天方少書物  
生中知也  
海尾四郎其

元禄四年未子二月十四日

右白鬘院寺中申論し事ありて此傳  
志しと也元禄三年百物一し力事  
今乃持書刻し中論し

不動堂  
未撰野口南無  
大師遍照金剛  
御城二之九川  
施主  
寛文四年  
九月吉日  
土州高知山

大師堂跡 今乃少動堂也  
谷重遠曆景亭記中云九辟之皆退而自  
保者曰比嶋繁中映日若空海大師之影堂也  
抄乃像今此處寺の大師堂にあり也

大黒天 辨才天 山上 静林寺支記

祭礼九月廿五日 元禄五年九月廿日 静林寺快音  
礼高島清自力申す也

清川明神 山上

祭礼 神主宮地信濃

地藏 山上

四社大明神 祭礼九月廿日

丹生大明神 高野大明神 越北大明神

巖島大明神 祭礼九月廿日

正保四年三月廿日 山白鬘院子正金殿是也

比治山正覺院兼帶之古言比山四所大明神

勅請也 棟札

正保四年丁亥二月十八日建立高野山四所大明神室祠

願主高野山正覺院法印覺田

熊野三所權現 郭林寺子所記

比治村大明神 系札九月廿日

比鳴神明宮

系札九月廿日

社人 定地信衆 少者多 少人

豐昌公 豐房公 少者社

元祿八年壬寅年卯卯也豐房即能會比念印

芝神明宮正覺院請日年四月廿七日卯卯利新

少補少後在村正宮也 比元祿八年寅

人等之也之也子孫十三年比元祿八年信徳

法之原也

社者八四也 但社者方金具子木釋木也

社者之也之也也 社者也 社者也 社者也

社者之也之也也 社者也 社者也 社者也

社者之也之也也 社者也 社者也 社者也

社地之也十九代免許 社地之也十九代免許

丁酉場西南境川上極境乃  
神樂寺殿斗又之石字保由而年分以分得  
以知未出初春宅為一五年分每季神細  
定林南境河右穀境分一府三間極限以境  
川上極三間極限上表事此間極限  
以給馬之石

奉掛神明宮元祿九丙子歲三月穀且二枚  
土佐太宰相平豐昌

奉掛神明宮元文三戊午年九月穀且一枚

後四位下行侍從藤原 豐敷

御戸帳 赤地色 表裏柳院換以赤色

鞆口一 鈴二 神樂大鼓 金燈籠二 華鬘一

石燒籠二 布幕巾二張 年水石

以社系美以在河中以代年也

住吉大明神 出雲大明神 土津嶋大明神

祭孔九月廿七日 社人 宮地 修造

春 宣永三戊午 豐房公出建三在任付表名

浙江村字津世為處字也地祭孔式日而此  
祭孔之日九月廿七日以供物其作以行意也  
宣保四年年以所處其處近此處也

比治山宮建寧在陽谷神邑宮地某孔出宮造  
立神主位如... 神酒三拜奠斗一地尾戶土室九ツ中

春日大明神

永享九年

社人宮地信流

永享三年 豐房宮宇神申山為老叟助  
請同女子年 豐隆宮神蹟其居什為多新右  
神蹟為本月年七月寺有寺村以神佈也  
言保千四年年衣之社日以... 神宮此信山以  
川橋

一乘山大中寺龍葉院

永德院 天台宗 陽貴山隱居

開山日攢和尚

寺創之文持坊新田江知三孫名

元三大師堂

空篋印塔

觀音堂 如意輪

正徳元年...

鯨口一

銘享保十九甲寅年六月十八日 美濃屋忠左衛門

金燈籠

日攢和尚墓

永徳院山上

貞享四年見就院 先師之 上并一丁日攢年  
百余年實為十八年 永徳院山上 又云

寛文九年 忠典公の遺詔に御比治山に改葬  
 仕下 龍安寺に遷す。根元山にありしを遷す。寛文  
 九年に比治山に改葬す。又寛文十八年  
 比治山の隱居中より出づ。あるに比治山に葬す。其の  
 地は又寛文十八年に此地に遷す。西の陸路  
 寛文二年に中道にありしを今に知す。

奉泉寺村

地千十二石三斗六升七合  
 在江口村北東限。刺野鉄砲築地。西限久万時戸  
 南限江口圓行寺川北限上左山三谷城。谷縦三十三丁。余横  
 二十丁。許其土沙土。山三。尾山。大谷山。岡田山  
 川三。一之谷川。三父川。大谷川。共南流。山石三。石崖  
 在愛宕山南方。廣三間許。懸崖サレ石在刺野奉泉寺  
 堺。大崩岩在奉泉寺上左山堺。

土佐州志云古名塩屋在木村南傳云昔制

鹽の船渡 田名也昔往來以舟。舟戸 在村東

昔繫舟

古元之奉泉ありし。昔の奉泉と云ふ。知也。昔は村あり  
 ありし。後河子ありし。志法治し奉泉親に親の時  
 ありし。と云ふ。物ありし。奉泉ありし。と云ふ。名は呼奉  
 進り。水合にありし。昔の傍にありし。いさむ  
 傍遠と云ふ。今之向ふのせしめ。いさむ。接無にありし  
 又其村。天智天皇の以後と云ふ。元親也。族  
 此の地は清のありし。

才、言明神 本トモト 祀あり九十九日 社地三代

社三尺四面  
新才天  
宇賀  
註美多麻神

如丸九子  
社地  
代社  
是尺四面

岡之宮  
權現  
如丸九子  
社地  
代

社  
是尺四面  
如丸九子  
社地  
代

山神  
如丸九子  
社地  
代

社  
是尺四面

觀音堂跡  
堂の跡  
如丸九子

龍泉寺跡  
不知

秦泉寺跡  
不知

方勝寺跡  
不知

北谷寺跡  
不知

妙覺寺跡  
不知

是之坊跡  
不知

上之坊跡  
不知

古城  
村  
不知

村  
不知

自  
不知

里  
村  
不知

村  
不知

土產神

少社

山之神

少社

八大龍王

此社は古くは八幡宮と云ふに社地六代社人四箇

此社は古くは八幡宮と云ふに社地六代社人四箇

此社は古くは八幡宮と云ふに社地六代社人四箇

此社は古くは八幡宮と云ふに社地六代社人四箇

此社は古くは八幡宮と云ふに社地六代社人四箇

王子権現

此社は古くは八幡宮と云ふに社地六代社人四箇

此社は古くは八幡宮と云ふに社地六代社人四箇

地藏堂

此社は古くは八幡宮と云ふに社地六代社人四箇

大柳大明神

此社は古くは八幡宮と云ふに社地六代社人四箇

此社は古くは八幡宮と云ふに社地六代社人四箇

仁井田大明神

此社は古くは八幡宮と云ふに社地六代社人四箇

此社は古くは八幡宮と云ふに社地六代社人四箇

此社は古くは八幡宮と云ふに社地六代社人四箇

日岡大明神

此社は古くは八幡宮と云ふに社地六代社人四箇

天智天皇陵

此社は古くは八幡宮と云ふに社地六代社人四箇

此社は古くは八幡宮と云ふに社地六代社人四箇

教正寺

此社は古くは八幡宮と云ふに社地六代社人四箇

天満宮

此社は古くは八幡宮と云ふに社地六代社人四箇

辨才天 宇賀能美多麻神 少社

少社 九十九方 社地 弘法 社人 四西

明見大明神 少社 弘法 社地 弘法 社人

四面 弘法 八尺 弘法 多法

山神 辨才天 少社 弘法 九十九方

社地 弘法 社人 八尺

神 世天王 野津神 相殿

弘法 九十九方 社地 弘法 社地 弘法 四面

楠神 弘法 九十九方 社地 弘法 社地 弘法 四面

弘法 弘法 弘法 弘法 弘法 弘法 弘法 弘法 弘法 弘法

弘法 弘法 弘法 弘法 弘法 弘法 弘法 弘法 弘法 弘法

有哉 弘法 弘法 弘法 弘法 弘法 弘法 弘法 弘法 弘法 弘法

春日大明神 弘法 弘法 弘法 弘法 弘法 弘法 弘法 弘法 弘法 弘法

瀧宮権現

之社権現

利卓山 王院 樂水寺 真言宗 御堂派

本尊 藥師如來 定朝作 桐岡 兵庫 廣善院

文殊堂 弘法 弘法 弘法 弘法 弘法 弘法 弘法 弘法 弘法 弘法

弘法 弘法 弘法 弘法 弘法 弘法 弘法 弘法 弘法 弘法

觀音堂



寶珠山常慶寺地藏院 真言宗常通寺末

本尊地藏菩薩

桂井素菴跡 在谷 今小糸伊豆傳任所

通稱根來屋敷助以酒造為業後隱于東

漢學名世鳴及好書名新父字光實辨

素菴 居易齋 東漢公羽 雲水館

大高清助跡 西谷

北江記曰其北江在上陽城之東四五里漸江江

口二水之流其源數十里檻泉沸涌水光激灑

或隨磯曲流或造岩激湍東流去入海漸其

北澤涯高 麥林薄 謁懸影 四圍構茅屋數

間西偏曰林屋大人之所棲 蓬南 膳曰足軒河

鬼之所考 蝦二指北二有二亭謂淵泉家長命

讀書之言 脯臨二淵泉故二名厥東北行數百步

有比島島邊天ト舊ウ漢今咸成田矣

大高氏名清女字米子 跡 歸 芝山

若宮 在少丸九乃社地十代社地人四而

跡 佐 於 人 跡 宮 實 文 十 年 以 來 七 字 家 記

文 親 家 在 田 和 伊 山 實 跡 於 八 十 五 孫 子

宮 迹 此

桂井素菴記曰

土左國土佐郡素泉鄉東谷村天塲谷之所祭  
之祠者田所猪奴之靈也

聞夫靈木氏堀内辨善左衛門其先山城堀  
内人也未詳其為何姓系世用武名于家一  
且漂泊于土州其性樸實剛爭氣風霜  
競執狼狽以無主之可為主而不果仕敵并衣  
糲餐陶如經日觀長曾我部素元親  
卿之駐使士而仕之食邑二十石於橫長之西  
濱而宅于橫濱素卿有靈于與讚阿之日

軍攻拔類嘗素卿有贈臣田所猪奴使剛  
士二人誅之猪奴因達刺擊却伐二士將出  
奔善公雖未蒙命而追殺路于彼素卿大  
喜增賜讚州之地二十八石四斗而改名氏作田  
所猪奴蓋永記其功而示其喜者乎魯莊叔  
護其敵橋如以名其子亦此類也善公一子善  
兵衛天正辛巳之歲定番於土州北川城善兵衛  
長男時七歲亦從此行乃是長續祖名辨善左  
衛門者也後三年天正乙酉轉移定番於讚州丸  
龜城及素卿屬大岡豐後善公從豐後美濃

等之役多勲功拜武勇感狀前後累度也  
天下既平從妻卿侍大閤後于伏見而居重  
年奉卿使之歸于國中豐岡城素卿既没于  
伏見右衛門大印盛親卿歸國善公謂其成  
後二士我大君既薨生無益于時遂剃髮  
謁盛親卿于浦戶城而乞骸骨歸自殺于豐  
岡城二之丸盛親卿甚感傷其忠貞賜其采邑  
於善兵衛殿後盛親卿没于洛善兵衛不二往  
遂隊其民間善兵衛長男善左衛門右四子女  
次女三兵衛次善左衛門又蔭入名次文左衛門  
次男惣兵衛次子男孫兵衛俱蕃子孫時換風  
遷皆悉為農稼函刀鎗感狀之遺類牲々散  
失不及復見焉猶以其餘物每年于孟春二十日祭  
焉是取倭士具足祝日也性歲寬文九禩正月  
六日靈託于孫兵衛之三男長兵衛之子源左衛  
門者曰嗚呼時遠人異葉寔姓絕不可勝歎  
矣使令廢業勿絕姓乎曾孫于三兵衛者我系  
派自今以我名氏喚曰所措及彼家重子弟勿  
加之於茲子孫做場以欲祠之不見遺墳於豐岡  
之山中而不得悽愴而不止者謂世之神明也宗

于此祀者彼因其崇敬而無所不至矣子孫誠  
敬厚則尊靈其可臨金之于茲相攸於此欲建  
祠於此地此地也山巒峻特林石幽邃遠人事而  
絕塵氣清淨自不孔因闢壇聚木肇工於  
竟文十年九月十五日落成同月二十日釀酒作  
新子孫相聚行祭事村闈之州聽受貴賤佗  
視不招而未不請而祭仰之言社崇之靈神  
童男童女舞踊以歌樂言勿如此然猶如此焉  
自茲每歲九月二十日以之為例顧夫子足祀之  
江淮管公祠之北野係支文武之明達者必皆  
非自故之而祠於靈祭於神於呼善公眾民  
崇以者是天之命也乎然則此靈之崇祀與  
天壤同永而光駁續於固極  
始祭之歲左三兵衛及其姪子又左衛門督來  
請干記以藏祠中曰永歆使子孫不忘余固  
陋之材况不識緒由故而不受之二子曰文節  
之不躡也斯不擇之若其緒由子孫識之請  
再之三之余感其追遠之厚睦族之懇懇竟而  
諾焉而余有事久未果今而書之  
延享甲寅九月望日

東溪野民信謹記

愛宕山

愛宕山大権現 伊弉册尊 晴軍地藏

寛永六年己未年仙居修了久保勘清

系乳六廿廿四日

おふゆ 吉田玄名

忠義より杉神高津野高と山境川

此山名領おとしり高野

杉尾大明神 三輪大明神社

奥院 太郎坊

寛永十三年乙卯法

撞撞堂

棟札 寛永六年 勧請美應二年忠義公即建立

○治代普題記

録田勘巫 家時筆記

曰 近年修置後 何事

隠遁人おゆりありおまお寺堪忍あり自神

心ありとゆき此八社地なり 申申おまお寺 左記

像の形神の形と成りしりい備とまお寺地なり

さしおまお寺に似し流之能き流ありおまお寺

修深しとて所は別じりあき法 相お河成今し

おまお寺に似る様ありおまお寺に似る様あり

此法乃の住居なりしと申ゆりありおまお寺

よりおまお寺と申すト也と云ふ山より法と山下の風

よりおまお寺と申すト也と云ふ山より法と山下の風

よりおまお寺と申すト也と云ふ山より法と山下の風

よりおまお寺と申すト也と云ふ山より法と山下の風

よりおまお寺と申すト也と云ふ山より法と山下の風

た郡坊地州縣もんと幾何の御所の事  
平時伴の宮庭も世は成りし御所の周旋先  
社殿れ位馬不中沢の流世も知人ありや  
とやオウイ内の道世と中下大郡坊也  
誨の文も云

一清和天皇廿五代後醍醐河内德川相国家  
康公洛西海一統續同相国秀忠公續當左大臣  
家光公今至三代国家豊安西海波靜也因茲  
諸国代承号叙藏箱尊五常小人者尊敬大人  
大人者濟救万人民仰佛神行正直正路外無他

事爰源家之末葉忠義朝臣伯父一豊公至  
土陽以來二代守護當國領國士農工商憐愍  
深君臣之道甚為正明而依深信心分國中堂  
社塔寺也新古采以為再并與構之貴賤稟  
崇佛神拂内外之塵埃運歩為靈地惟顯  
佛法皇法之道可謂為直人民之邦儀而今國  
守之信臣本末美濃國住人藤原末孫仙石  
但馬守久勝至當國以來君臣之道為正明分  
領之民憐愍深元末依為武家嫡々身自幼  
少之頃當奉公仕武將年久其身桑常為正

道信佛神因梓立身於家之巽言武勇之不  
酬數之是惟其身常住正仁義且大日一鉢之  
靈利支尊天貴之可謂快應護而當城於  
近邊建立愛宕山為堂杜佛閣之靈地欲運  
步觀見其山莊當城北甚泉寺有津崎之  
東為海漫平砂廣萬鳥双翅滿所所  
西連山城之槿峰峙麓住獸走田島  
南有城郭豐豐散軒四方厚民無燈忌  
北踰深谷瀧流銀浪招柏重稍出黑雲  
凡兼八景切鮮清心意地也真寶奉堂示尊

像期不加於此既寬永之初勸請愛宕山建  
立社堂而後敬奉迦尊像當國號五基山  
竹林寺昔年聖武帝有勅願所之御寺於是  
為行基菩薩之作地藏薩埵座空殿有夜  
彼寺住持於空鏡大上人思儀告有并  
乃是奉進藏北山堂之空殿而頃但馬國住  
人中澤弥平次藤原豐永寬初之頃雖為若  
年有隱遁之志大和國龍泊瀨寺而近年回  
四國今至土左國住於國分寺彼寺作八祖而  
後遂愛宕山佛詣第一諸人為信心且又為

後世之親但馬守作太郎坊則但馬守亦立  
新堂奉祈信之雖為末世濁亂日月昭普天  
下方便何有疑仍為國家守人王武運長久子  
孫敬皇昌貴賤安穩敬白

干時寬永十三年八月如意珠日

大檀那 仙石但馬守藤原久勝

尊像作 中澤弥平次藤原世長

○仙石但馬久勝墓 山中

元如六季名義公在  
仙石氏之系圖左記

仙石但馬藤原久勝

美濃國長柄人初仕信長公後仕福鳴  
正則元和六年仕忠義公知行三千七百  
七十石賜之家是列寬永十六年卒

左近為久

父跡式之內千三百石賜之寬文八年卒  
勘兵衛勝實 仙石弥大夫家

寬永十六年三百五十石父跡目之部配分



八左衛門勝家 仙石伊太夫家

寛永十六年三百九十石以跡目之節配分

左平次為寛 仙石祐三郎家

慶安四年七人扶持廿四石馬廻

弥右衛門勝直 仙石當 弥右衛門家

又跡目千三百石賜之

源次即為乾 仙石當 源次郎家

慶安四年被召出寛文八年知行二百石

元禄十年申老列

嘉藤次為正 仙石當 嘉藤次家

一〇沼三年児扨従

勝藏久誠 仙石當 勝藏家

寛文二年八人扶持廿八石小々姓

式之當國を名の親の内大伴村あり古伝所と申傳  
少ぼあり大伴村に依る記より大伴村より移りあり  
今此大伴や申傳といふは事多あり古の所と申山の西  
の入口の色切りあり今これあり河あり中河と申  
り名のいれあり大伴今此屋戸の色と申す申す  
親地換此大伴の所なり今此屋戸の色あり

久万村

地五百甲三石九斗三升二合  
距城北十町許東至秦泉寺村西至園行寺村北山南田沿山

東西二十余里赤土赤黒○山三池田山在秦泉寺堺王子山在  
村東池田山梅大首山在村東其東王子山北秦泉寺山連

○川ニ久万川其源出園行寺諸山小川合流入東海福井江川  
或云ツナノコタ川自福井村方ニ久万流久万川合○谷ニ大谷在火  
首山西秦泉寺山梅 蟻谷在水谷西北水谷山梅 高野谷蟻谷  
西山南曰高野谷 泉谷蟻谷西山南曰泉谷 阿正谷山東限秦  
泉寺北西限園行寺縱十丁横一十丁口橋二山崎橋久万川之橋  
古名也ビヤカ橋有福井川一

荒神社

神明宮

妙色山靈安土金性院 真言宗

寺觀石と斗と井各 鏡の力と云

上州八社正法寺常任芝永享七年十二月八日壹里敬白

安樂寺跡

阿弥陀堂

二王門跡 今古趣也此江多色也

鐘樓跡 今古趣也此田部山より鐘聲也

昔ハ勅額ありて大伽藍也近頃の年号不知

天満天神宮

安樂寺此蹟也之後天守存天神勅額清光之安  
樂寺也之跡也之跡也之跡也之跡也之跡也之跡也之跡也  
之跡也之跡也之跡也之跡也之跡也之跡也之跡也之跡也



鏡直一尺二寸



院：納免あり

毛利豊前守吉政配既

毛利原卷四三十一詳也

あまき治や又一説より方出城より小或云毛利  
をよき海軍人多く久方村より其より豊吉  
十九年久方乃能より信子瀬戸より船中を極  
に難境をれしに信の治の進軍を今形御所の内  
出るとい信の治の船中を棄つれしと云元  
年豊前守吉政の墓法休辨所

毛利豊前守吉政墓法休辨所

一、由緒より七十六年辛亥五月七日、葬吉政名

白雲院御好意御祇江に尾戸山に在る坊子

其葬中後久直は福教坊を建今其舟り山に

毛利豊前守吉 此廟不知

其のより由緒より五十九年、今村多幸吉記前

子吉就遠守吉政其女御治の妻より其廟に其

知事より其七十六年、其より吉政又より其法其寺

其寺より用定より臨遠其寺其寺一其寺より九年

其國より引より其坊治其寺一其寺より其寺

其寺治其寺其寺其寺其寺其寺其寺其寺其寺

○毛利を討つ婦の事あり其令中極多傳父あり  
其正七年辛丑九月十日方山領りし事あり其  
豊前小倉の城を置京を治す小倉城を正上あり  
清正公に臣然し一豊公の功現故大極人多人  
その討つ事あり其多思心のありし事あり

一豊公の功あり其功は思ふを初天より新あり  
其功極多思ふ也此況をいふ事あり其功あり  
其功多思ふ事あり其功あり其功あり其功あり  
其功あり其功あり其功あり其功あり其功あり  
其功あり其功あり其功あり其功あり其功あり

其功あり其功あり其功あり其功あり其功あり

西宮神社

其功あり其功あり其功あり其功あり其功あり

其功あり其功あり其功あり其功あり其功あり

其功あり其功あり其功あり其功あり其功あり

其功あり其功あり其功あり其功あり其功あり

其功あり其功あり其功あり其功あり其功あり

其功あり其功あり其功あり其功あり其功あり

其功あり其功あり其功あり其功あり其功あり

古城

少少あり其功あり其功あり其功あり其功あり其功あり  
其功あり其功あり其功あり其功あり其功あり  
其功あり其功あり其功あり其功あり其功あり  
其功あり其功あり其功あり其功あり其功あり  
其功あり其功あり其功あり其功あり其功あり

久野豊後守墓

古城東南の山あり

此後子久方在邊り子久方助力所及子久方  
 後不之討死久方居邊り邊希義の子八段分  
 一代の孫考高亮陸助後子久方後部言後  
 其久方城領志くより久方城代と云今典後  
 子後宗と云力代や邊宗と云親と邊宗これ  
 近毫一久方の博久武紀後子孫をのむ姓に  
 去後子久方之河より子孫をのむ親後なり  
 久方之河より久方之河に流るるは久方  
 武紀後いも子久方之河に流るるは久方  
 後宗子孫をのむ子久方之河に流るるは久方

婦りぬき

牛頭天王 少社

松熊大明神 少社

所見大明神 少社

百々村

地四百八十六石八斗六升七合  
 岳城西北二十下東接久万村西限福井村北限圓行寺  
 南限小高坂其土赤黒の山三天神山 大志山 山リクマ  
 山皆在村北。谷三天神谷カウリ谷山リクマ谷皆在村北  
 橋一石神橋在圓行寺小高坂通路長四間幅六天  
 全北所十石神岩。溝澮。自此流南長七百九十九間  
 長四間

熊野三所権現

寛永九年九月廿九日

お湯

法華寺

社奉才代布社奉向申さる 又お湯沙るさる

お湯之りさる

棟札

寛永廿一年申外月吉日再建三神社建宮告申通寺

法印 嚴照 榮照

宝永七年寅年九月十八日修復神社別當錫杖寺空性大夫

秋澤助大夫

元文五年九月十日修復神社別當法圓寺真盛

神主秋澤長門

宝珠山錫杖寺十輪院 真言宗常通寺宗

本尊地藏 惠心作

牛頭天王 小社

辨才天 小社

西之權現 小社

古城

村中お湯の 備申字存し 一説云松樹湯字

備後守り松左衛門尉平子山 去程長石

カンホウカ 乃く福井 乃村の湯

天満天神宮 小社

今宮權現 小社

今宮權現 小社

小谷權現

山之神社 湯島園書屋造

法圓寺

真言宗

福井村

地四百十九石三斗五升

北限西限南限東限

井北限蓮臺園行寺東限西限南限

赤黒の山ニカンホウ山西山の谷川ニ細流也

舟渡在村奥古海路舟行古名也

天神宮

社地代市社寺間四面好度

三間 棟札

永禄年中永正三年永禄七年棟札文字不知

寛永十八辛巳天九月吉祥日新建立天神宮遷宮

常通寺嚴照大夫秋澤助大夫

寛文五乙丑年九月吉祥日再興上菅天神宮遷宮

常通寺尊龍

貞享四年十二月十日再興天神宮大夫秋澤十大夫

元禄十一年寅九日九日再興天神宮遷宮神主

秋澤助太夫

正徳三癸巳年正月廿八日再興天滿天神社遷宮

神主秋澤助太夫

享保五庚子年八月廿五日上管立天滿天神宮

神主秋澤伊豆

享保十七壬子年八月廿九日再管天滿天神宮本社

神主秋澤伊豆

元文二丁巳年再建天滿天神内小社神主秋澤伊豆

權現言

九少乳方十八日社地廿代布社四尺四面相居

九尺三間 多居

念佛山西蓮寺遷到院

浄土宗

本尊阿弥陀院惠心作

祇園社

九少乳方廿七日

神主秋澤伊豆

社地十代奉安布社四尺四面相居及美之沙弓

相居美之沙弓半多居今不知内事不知

享保三年 山内氏松尾氏建立

正八幡宮

九少乳八月十四日

神主秋澤伊豆



社地十代社社人署好麻久人

木覺寺

木尊阿弥陀

降神

降神

奈久月廿九日社座方代社社人方寸四方好麻  
久人三子 多所

称名寺隱居

鉄籠葉座

山 山 村 尾

若宮大明神

小社

若宮八幡

小社

神母

天満天神宮 小社

北岡大明神 小社

天神宮 小社

古城

蓮坐系部古多村一隅の山に民衆居入

元尾 井の堀の端に

或云稲毛右系居し切山の墓なりや元親の傳朱

往還寺 一向宗東洲回滿寺末

木尊阿弥陀 定朝作

當古志遠州檜山

少不後出... 唐四年通... 井村... 疏土年火災後福

圓行寺村

地百五十六石七斗六升七合  
東西三谷 舟岩西接蓮臺南限五々村北限弘瀨  
東西十八丁許南北三十丁余其上赤黑沙土  
山一長芝山在村南谷六六石谷赤井谷於毛谷  
竹岩名 西浦谷 七曲谷皆小流也流合入久万川

山皇權現

白丹... 社床之... 社八尺九尺...

山王 藥師 毘沙門

若海... 棟札

一乃治元戌戌年十二月吉日再建立神社... 寬文十庚戌年正月吉日上普大權現一宇常通寺尊龍

願主近藤一夢長政 近藤市十郎

延享五年九月吉日再立山皇權現社別當法圓寺法印莫盛

若宮 村之面 有社記

山神

毘沙門 堂之記乃茅屋布多乃其記

辨才天

阿波太郎社 村にあり

昔阿波太郎と云ふ者阿波の事と云ふに非ず里人

其の遺蹟あり

葉師堂

如常の基礎秘佛 堂に宮茅尾

西村分大跡あり遺蹟あり

仁王門跡 堂にあり山に二基あり

風の庵あり

古城

村に南道臺福井あり村に塔あり山に式部石

圓行寺跡

尚書館に今も遺蹟あり其の石に  
圓行寺應永十三年十月八日 鐫り其石八分

十二坊

東坊

辰林坊

行泉坊

新坊

圓淨坊

作善坊

西林坊

峯坊

岩本坊

智泉坊

西室坊

永祿元年六月十日日本山崎某の殿  
下某怪の事あり大社を造りて其の  
あり事なり大成苑を造りて其の  
あり事なり

飛入沖流し初堂の橋本へ入り又走り入り  
 沖流し橋本に降りけりし事有る余處にあり  
 住持日成致すに凡そあるに嵐又あり已か危し  
 火城君と橋本一上りし人より内上極火忽燃出  
 入りは岩下新田幸強き住持乃之氣自滅  
 乃時より人乃可ふ事此より之種色古物  
 心とおぼしうしはるる事多し出所如事致すに  
 鳳山せき方乃二月も又入新倉なり之に  
 乃之七人ナ立無しより事是廻廊障欄障籠ニ  
 是の一事子一法快く事相り

江口村

地千二百八十四石一斗三升  
 東限塩田堤西限高坂北限之河川一級四十下橋十二下余  
 口山川北島山 飄草川 雨賀川 三石 橋二 山田橋  
 長十二間余昔在素泉寺畔近世命之架路比島橋長十九  
 間架久河川

熊野權現宮 大ニ

如少九廿廿二石 為高 熊野院 神主 山田 孫河  
 言床四十代市社と聞て人 坊塔 新倉 山田 孫河  
 此宮と云ふ事 多し 神主 山田 孫河 神主 山田 孫河  
 四面慈地下化す 江口村氏神之在 勸請本唐山  
 昔之土地 尾戸多し 寛文 上亥年九月十九日  
 江口村の福松と云ふ源氏社床山代 此宮と云ふ事

二五年氏子才多如河孫氏多附地所築立社建  
立三所定宗原以四孫氏也

第四代多丸代沙步有才之内  
三孫氏代有才大シコ  
沙孫三代沙步有才

但之方原地也如多丸其才多及才也代沙步有才

氏子才生也 棟札

寛永十四曆丁丑卯月廿七日新建十戸宮別當權少僧都

惠覺願主井木武右衛門正吉神主弘田四郎右衛門

神主福永助之進在宜宮地藤右衛門日使八右衛門

延享二乙丑年九月廿日再建立權現宮非殿舞殿別當  
龍福院祝官宮地甲斐守神主弘田事次日使福永喜兵衛僧出羽

地藏堂 受官町

大善寺 一向宗西派

本尊阿弥院

舊下蓮池町、為元禄十一年火災後り志寺所移

室多丸大寺後江川後

神女小社

福興寺 一向宗西派

本尊阿弥院

尾戸 古名小津

鏡岩又名綱之寺 古くは海や岸に大



塔頭芳心院

寺領二石

薰的堂

芳心堂に謙序寺と云ふも予我親九親多父母の  
追及の爲小隱序を成再無世々之好まの仁史  
城集の左立を持亦谷の地取を亦等名未  
と刻之冊書成飾り珠玉も有りも亦り成を録  
日成徳之成就しられ観物之くさか也地取  
物之く新也父陽應元世方居士以丹祥鳳  
吾師大姉乃善授寺ありし今奉山隱序寺成  
以矢福今山陽應元と稱し之名の田地成あり

種れられい亦片の而一畝石の田地と月堂田と  
稱し之亦ありに付し此亦寛永後代物行急悔方  
く仙法亦少島の地も亦あり今復之我々地取  
御も亦好抄書成も今此後内へ引移されぬ

大立寺 一向宗 西派

本尊 阿弥陀

小高坂村

北三百六十石三斗四升五合  
在城西北其東限江口西接井口南限一川一北連三万石久万  
東西十丁余橫十二丁余其土黑口山一十高坂山口川一出  
杉田經村至山田橋昔鏡川過此地一出杉田歷村流河口田  
取灌

若一王子宮

永享九年十月十六日 小高坂村 神主 江守 氏 御  
定之系七代 山麓喜賀物市社六人之才一實人九寸

梅葉 每歲神事之日有持鹿神事之日有持 寺在  
神事之日有持鹿神事之日有持 寺在

神事之日有持鹿神事之日有持 寺在

延享元年十月十八日再建立之若一王子宮舞殿

拜殿延宮神主宮地甲斐守重光 相出羽

鉄鉋替古場

地面十六代定步 寛文年中以定

寺町

寛文十一年辛亥四月 伊達公新少備守務 公孫

延享七年未上廿四日高坂村公御記所奉書中後

定永四年亥年大地震後今乃寺所之集

源信山淨福寺正林院 淨土宗

本尊阿弥陀惠心作



當時宿初和山村の或之横山九郎長傳父子村  
埔より一時浄福寺に遷り万石島浄法寺清  
島院浄法寺一歩横心成善院也其後浦戸  
町八川其七年中新市町に引移元禄十一年  
田原且度少地事町に引移永四年七地事院  
其後今の成川橋舊記無し故初録  
辨才天 法守也石神法法師也

此寺像舊横濱町大崎屋九郎也其  
元禄九子年八月廿五日 十寺院卷上人代横門  
細成申道心者実領也其乳也一平也其院興也

其夢中ニ其像身現る云永く其寺成り云

其別為法寺也

智福山西念寺 願正院 浄土宗

本尊阿弥陀惠心作

此寺有舊屋父子村岩谷金治多傳其横山岩谷  
道元此寺提り多父子村其其後横山浦也其  
引其七年中紺色引移元禄十一年田原且度下  
知寺所引川室也四年大寺其後今乃寺所引移

願 智福山 山川者石引寺 羽幸寺也

受宥權現言 法守也

山泉寺 浄土宗

本尊 阿弥陀

嘉吉七年中蓮池町に建立元禄九年火災後  
下地寺町に引移り四年大變遷今下地町に

専修寺 浄土宗

本尊 阿弥陀

在御所町に建立元禄十一年火災後下地町に引移  
室町四年大變遷今下地町

真光寺 一向宗 京講光寺末

本尊 阿弥陀 専心作

関山不知

中興 采春

當り舊種徳満寺に於て嘉吉七年中紺屋町に引元禄  
十一年火災後下地町に引移室町四年大變遷  
今下地町 或云舊湖戸に有る親之御殿後

柱跡所今下地町に在り 嘉吉寺地切移り  
延平一基 武藤次郎左衛門信秋

高田伊勢守信隆之次男也  
忠義公由書

由乃人神生幼本寺

まへに物持極清

鬼然一曲物之至誠

遠近之入念之候

清之我水氣色

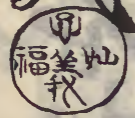
衣衣之海子之海子

至是酒菜令結用

有本之りりり

了

月六日 養



志光寺

忠義我根乃清操極

同抑在平心以卷札等

性清鬼灯也其物心

之原公羊布一越被

家平中會之在法家

清清乞 且是之在

即直書之云 作董

少接理係乃自勿使其

古名之馬以陽云

楚生之好好乃存耐

養正

生功

有方

遠

孝先

新原敷 石丸

享保廿一年 少子松村分 新原住居所

古城

大言松村頭所 其子大言松村助

三丸

此言忠義公孫松村の孫君の山邊院心養字子  
守正永享年八月甲子遊喜也山内松村監居守正  
後美尾居の母也喜也美尾居の豊昌守正  
守正の丸居死す少子松村守正今三の丸と

云々右の墓有故し古傳の元と記すに支  
よりあはる右の墓代迄出の乾氏の行を  
道に花布を考悔思ふと元化庵に付申致し

宗善寺 一向宗西派

本尊阿弥陀

森之明神

此の記一頁の旨

神多し地甲受

古き記左巻に親實の遺言也昔の記 西多村し

明神日神の元親時代天正十六年十月四日也

西多村は尾上村也と傳へ七巻の抄巻に多村は尾上

西多村の 勅清

天正十六年九月下旬元親の二つ尾家臣が我集

此を元親の遺言と云ふに傳へる記に七巻

記に西多村は尾上村也といふは此

事なり地家傳に此の傳へる事あり然れども

と云ふは傳へる事あり然れども此の傳へる

如何と云ふは此の傳へる事あり然れども

と云ふは此の傳へる事あり然れども

又此の傳へる事あり然れども







天孫以安... 多刻... 婦人... 以赤... 之流... 千... 度

形多... 少... 師... 以... 包... 發... 達... 光

皇元... 祿... 年... 大... 統... 亮... 公... 以... 免... 子... 延... 子... 以... 河... 產... 已

賢法山帝通寺慈地院 真言宗 東山岩倉觀勝寺末

本尊 觀音 弘法大師作 或云定朝作 葉師 安阿弥作

關山齋惠法印天文十五年寺領百石

什物 般若經一部 京仙筆

歡喜天崖之名號

飛龍權現 瑞亨 慈惠山 末社

天滿天神 松州 生谷寺 弘向之神

寬文中... 先... 守... 位... 勸... 清... 宮... 為... 人... 之... 志... 尚

公義... 傳札

寬文十三年癸巳極月吉辰再與由社鎮宇一

言 執權九子石賴母佐桐間兵庫頭仕置宇

田弥一右衛門岡田嘉右衛門寺主法印宇信

元祿三之天庚午十月吉辰日再與飛龍權現

與喜天神社 執權山内信和乃子石元政

桐間幸卓寺主帝通寺宇信

正德六丙辰年五月吉祥日再與飛龍權現宮

玉垣 住持法印覺真仕置井上平藏百々

弥三右衛門岡田又兵衛

享保三戊戌年極月吉日再與飛龍權現共

天神社遷宮道法師法印覺真 執權山内

監物桐間兵庫

大師堂 元禄年中比治心覺院引移

文化三年堂新再建

觀音堂

鐘樓門 鐘次

奉鑄印雜鐘事

備後州御調郡栗原保内尾道御所崎光明寺

右大檀那橋本信吉

延德四年閏極月七日

仁王門 力士蓮慶作

昔久方村安樂寺之方今寺乃仁王

也

八幡宮 德守寺

塔頭 真樂寺 威徳院 明王院

吉祥寺 福成寺

或云買法上悉地院安祥寺 寺名我記以

菩提心也昔無寺天皇乃以乳以基菩薩

乃字卷之五後代乃帝王初乳母を延  
 壽式十安祥寺に造料を奉りてこれに  
 漢季漢乳子乃之 勅乳の何法もなされ  
 松の造営も皆ありて之を天文三年の秋あり  
 其宗家初少親遠近の王工中切集免弁  
 跡跡四下儀も此乳一佛及法華寺  
 表信堂山の熱心造橋の方丈造堂佛  
 苑寮令迴廊ありて之にありて  
 一信堂寺も少親乃又免表堂なる造の是程  
 されあ祥寺或は免堂造ちて強以院号

山号ハ本のみ一國あり年乃互齋惠法名城  
 住職といふ少親造ち乃元徳之中後免親公  
 忌豊城を大寺造ちて佛時并て地畠戸一  
 引揚りれぬも宗家親ほるの後  
 一豊城ハ一國の浦戸津を大寺造ちて佛時  
 寺を城々の寺地に佛畠戸造ち山名造ちて  
 寺なり  
 元親公ハ一國の浦戸津を大寺造ちて佛時  
 谷免堂造ちて元親公佛人少親宗一儀  
 少親別以攝以來以瑞白寺を成りて其寺中堂

大寺の権日院 所寄何に池東市才の寺上  
の寺の権日院 所寄何に池東市才の寺上  
所寄何に池東市才の寺上  
所寄何に池東市才の寺上  
所寄何に池東市才の寺上  
所寄何に池東市才の寺上  
所寄何に池東市才の寺上  
所寄何に池東市才の寺上  
所寄何に池東市才の寺上  
所寄何に池東市才の寺上

土元親  
寛永四年四月廿日  
御親

光通寺  
山内守中

高坂山 今東海寺境内、取城  
櫻馬場

圓滿寺 一向宗東流飛縁 東御坊

本尊阿弥陀 古鏡山接尾

寛永十一年四月廿日

川原町

往古風流、今和于沙、目辺の山江流中言  
昔高坂山林、今東流流水海、入今江原  
の如く、東海寺、今東流流水海、入今江原  
一豊台、今東海寺、今東流流水海、入今江原

東に流れ海に入る江川江川乃關其系

青班石山字坂山久方村おに井

方と蘭斗乃名是年は城並清の所

川石城とんとんに 乱理あり汗の如血書

多り流濁りその名は名書也

未嘗可如所

國語古 可字未成類 東書教

野也地

南路志卷十四終

南路志卷十四終

